



2013



1954



2001



1973



1993



1981

すかがわの軌跡をたどる

須賀川市60年のあゆみ

すかがわの軌跡をたどる

須賀川市制施行60周年記念誌

1954 - 2014

すかがわの軌跡をたどる



須賀川市60年のあゆみ
須賀川市制施行60周年記念誌

須賀川市60年のあゆみ
須賀川市制施行60周年記念誌
1954 - 2014

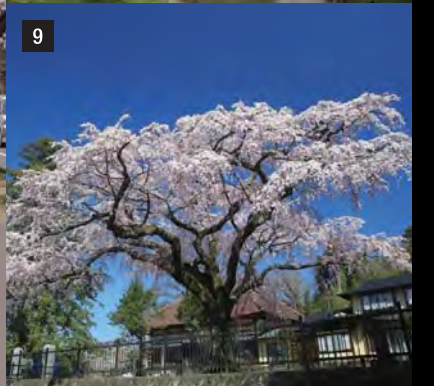
1954 - 2014

すかがわの軌跡をたどる
須賀川市60年のあゆみ
須賀川市制施行60周年記念誌

1954 ▶ 2014

春

木々が目覚め、明るさを増す春の陽に緑も彩りを深める。花々が薫り自然の息吹きあふれる須賀川、春のスケッチ。



- 1 須賀川牡丹園の牡丹
- 2 樹齢200年を越える牡丹
- 3 大桑原つつじ園
- 4 須賀川沿いのソメイヨシノ
- 5 須賀川の上空を泳ぐ鯉のぼり
- 6 宇津峰
- 7 須賀川ふれあいロード
- 8 翠ヶ丘公園
- 9 永泉寺の桜

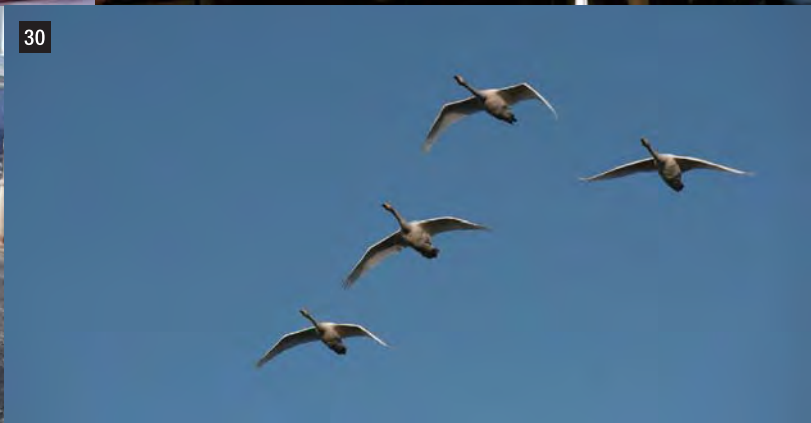
- 10 市民よさこい盆踊り大会
- 11 幻の大滝
- 12 市内を走る水郡線
- 13 里守屋三匹獅子舞
- 14 古寺山あじさい祭
- 15 きょうり天王祭
- 16 釈迦堂川花火大会

耳を澄ませば、心はずむ旋律がどこからか聞こえてくる。このまちの人も自然も、その命を謳歌する須賀川、夏の記憶。

夏

冬

まっ白い息を吐きながら、笑顔と笑顔が交差する。
厳しくも慈しみ深い季節の始まりを告げる須賀川、冬の扉。



秋

17 円谷幸吉メモリアルマラソン大会
18 須賀川牡丹園の紅葉
19 棒衝神社の太鼓獅子
20 美りの秋
21 松明あかし
22 陽差しが日ごとに傾き、木々が駆け足で装いを変えていく。
美しい彩りに心まで染まっていきそうな須賀川、秋の気配。

陽差しが日ごとに傾き、木々が駆け足で装いを変えていく。
美しい彩りに心まで染まっていきそうな須賀川、秋の気配。

すかがわの軌跡をたどる

須賀川市60年のあゆみ 1954▶2014
須賀川市制施行60周年記念誌

C O N T E N T S ◎ 目 次

須賀川春夏秋冬…………… 2
めぐる季節を重ねて60年

第1部 通史 1954▶2003…………… 7

第2部 通史 2004▶2013…………… 13
須賀川市大年表…………… 34

第3部 クローズアップ須賀川

須賀川の牡丹園…………… 40
釈迦堂川花火大会…………… 42
長沼まつり…………… 44
いわせ悠久まつり…………… 46
松明あかし…………… 48
偉人探訪 須賀川人物辞典…………… 50
歴代市長・市議会正副議長／昭和29年度・平成24年度一般会計歳入歳出決算額…………… 52

発刊のことば 須賀川市長 橋本克也…………… 53



第 1 部

通史 [1954 - 2003]

四季の訪れを告げる花々のように、

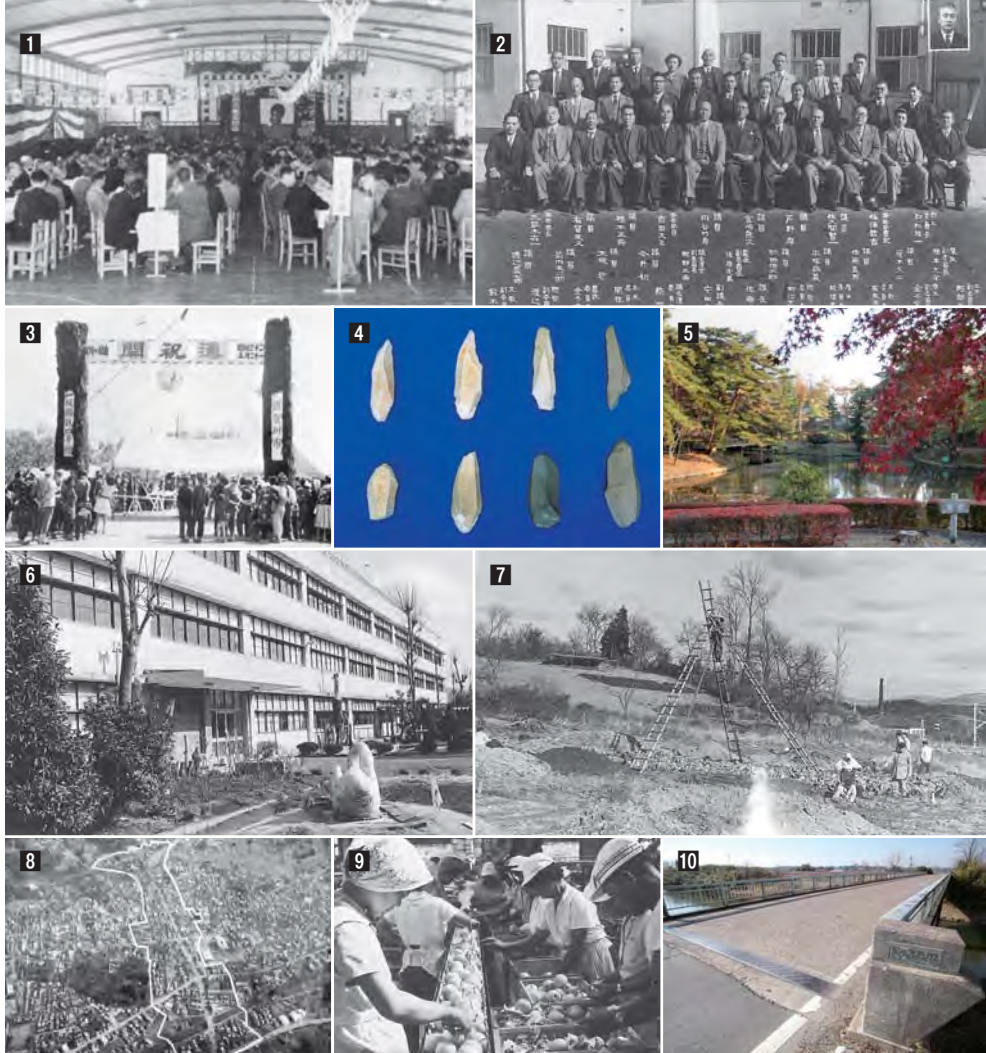
須賀川の歩みもまた華やかな彩りに満ちている。

そんな色とりどりの須賀川の出来事を

ダイジェストで振り返る、須賀川の色、いろいろ。

須賀川市制施行から梨の果実共同選果場設置まで

1町4か村が合併し須賀川市が誕生 新しい歴史と未来を創るために歩み始める



1市制施行祝賀式 (S29) 2第1回市議会議員選挙当選者 (S30) 3国道4号開通式 (S32) 4首藤保之助氏が阿武隈考古館資料を市に寄贈 (S33) 5昭和34年に誕生した翠ヶ丘公園 (写真は現在) 6市内初の鉄筋コンクリート校舎 (第三小学校) (S35) 7上人壇廃寺跡発掘調査風景 (S36) 8中部地区土地区画整理事業に着手 (S37) 9梨の共同選果場を設置 (S38) 10昭和38年に開通した宇津峰大橋 (写真は現在)

S U K A G A W A 1954~1963

須

賀川市は、昭和29年3月31日、岩瀬郡須賀川町、浜田村、西袋村、稲田村、石川郡小塩江村の1町4か村が合併して誕生しました。

市制施行とともに市歌と市章を公募、市歌の発表会は、素晴らしい公演として、全県下に放送されました。

昭和30年3月には、第1回市議会議員選挙が小選挙区制で執行され、議員30人が当選しました。立候補者は67人、投票率は実に91・53パーセントという高さ。新しい議会への市民の期待の大きさが感じられます。また、同年7月には、本市の主要農産物であるキュウリの全国へ向けた出荷もスタートしました。

昭和32年、東日本を縦断する現在の国道4号が東京から青森まで開通。その後、須賀川と郡山間はわずか15分で結ばれ、バスの利用者が急増します。交通量の増加とともに国道付近の開発や都市化が進行。国道開通が本市の発展に大きく寄与しました。

都市公園整備も行われました。



須賀川市歌・市章

昭和29年3月に誕生した須賀川市は、市制施行と同時に、市歌、市章を公募しました。市歌は、市内在住の男性の作品が選ばれ、本市ゆかりの詩人勝承夫が補作し、歌詞には緑あふれる豊かな自然や永い歴史、松明あかし、牡丹、乙字ヶ滝など須賀川の美しい情景が盛り込まれました。市章も市内の男性の作品を採用。「すかがわ」の「す」の字を図案化し、扇状の末広がりに市勢の発展を象徴したデザインとなっています。

翠ヶ丘公園は、大正12年に妙見山を公園としたのが始まりで、昭和34年10月、五老山、南館、保土原館などを含めて、改称して整備に着手しました。約30ヘクタールの園内は、市民の憩いの場となっています。

また、昭和36年5月と7月、翌37年11月には、須賀川地方初の本格的な発掘調査として上人壇廃寺跡の調査が3次にわたって行われました。なお、同遺跡は昭和43年5月、国の史跡に指定されました。

昭和37年に果樹基幹産地の指定を受け、本格的な果樹の栽培が始められました。翌年、西袋・仁井田両農協が梨の共同選果場を設置。選果作業の時間が短縮され、出荷数の増加につながりました。大正末期から始まったといわれる本市の果樹栽培。戦後は梨のほか、阿武隈川河畔ではリンゴの増植も行われました。日本経済が高度成長期に入ると、果実も「量から質の時代」へと変わり、こうしたすう勢へ、いち早く対応したものとなりました。

市制施行10周年記念式典から東北縦貫自動車道・須賀川IC開通まで

感慨深い10年に更なる躍進を誓う 須賀川ブランド、全国の市場へ進出

昭

和39年10月、日本中の視線を釘付けにした東京オリンピックが開催され、大町出身の円谷幸吉選手がマラソン競技で銅メダルを獲得しました。折しも市制施行10周年の記念の年。この快挙は市民を大いに沸かせました。

昭和41年、本市の特産品である須賀川産のキュウリの出荷が初めて全国一を達成、同じく西袋産の梨もベトナムへの空輸を開始します。今日、国内外で愛されている「須賀川ブランド」の礎が築かれたのが、この時代でした。

そして、昭和44年10月には、旧第一小学校跡地に市庁舎が落成。木造平屋から地上4階、地下1階のモダンな建物に生まれ変わった庁舎は、本市の新しいシンボルともなりました。また、市民生活に関する課は1階に配置するなど各課の配置も分かりやすくなつて、より身近に行政を感じてもらえるようになりました。

昭和45年5月21日、昭和天皇香淳皇后両陛下が本市をご訪問されました。須賀川牡丹園を見学され

た両陛下は、満開の牡丹に歓声を上げられ、植物学者でもある昭和天皇は担当者へ専門的な質問をされるなど、楽しい時間をお過ごしになりました。

また、同年8月には、公立として福島県下初の市立博物館もオープン。本市出身の郷土史家首藤保之助氏が収集した貴重な考古・民俗資料などが展示されました。

昭和46年、本市は「公害のないあかるく豊かな近代田園都市」を都市像に、まちづくりの指針となる総合計画基本構想を策定しました。本市の総合計画はその後、時代の潮流や本市を取り巻く状況などを的確に捉えながら改定を重ね、第7次総合計画「須賀川市まちづくりビジョン2013」まで受け継がれ、市民との協働のまちづくりを進めています。

交通網が発達を見せたのも昭和40年代のこと。須賀川駅には特急列車「ひばり」が停車を開始。上野駅と2時間16分で結ばれました。また、昭和48年11月には東北縦貫自動車道須賀川インターチェンジも完成しています。

1964~1973 S U K A G A W A

1 円谷幸吉選手の故郷がい旋パレード (S39) 2 「須賀川広報」から「広報すかがわ」へ改称 (S40) 3 須賀川産キュウリの出荷が全国一に (S41) 4 須賀川地方衛生処理組合のごみ焼却施設が完成 (S42) 5 昭和43年頃の駅前周辺 6 落成当時の市庁舎 (S44) 7 牡丹園を見学される昭和天皇・香淳皇后両陛下 (S45) 8 牡丹台野球場が完成 (S46) 9 公立岩瀬病院創立100周年 (S47) 10 市図書館完成 (S48)

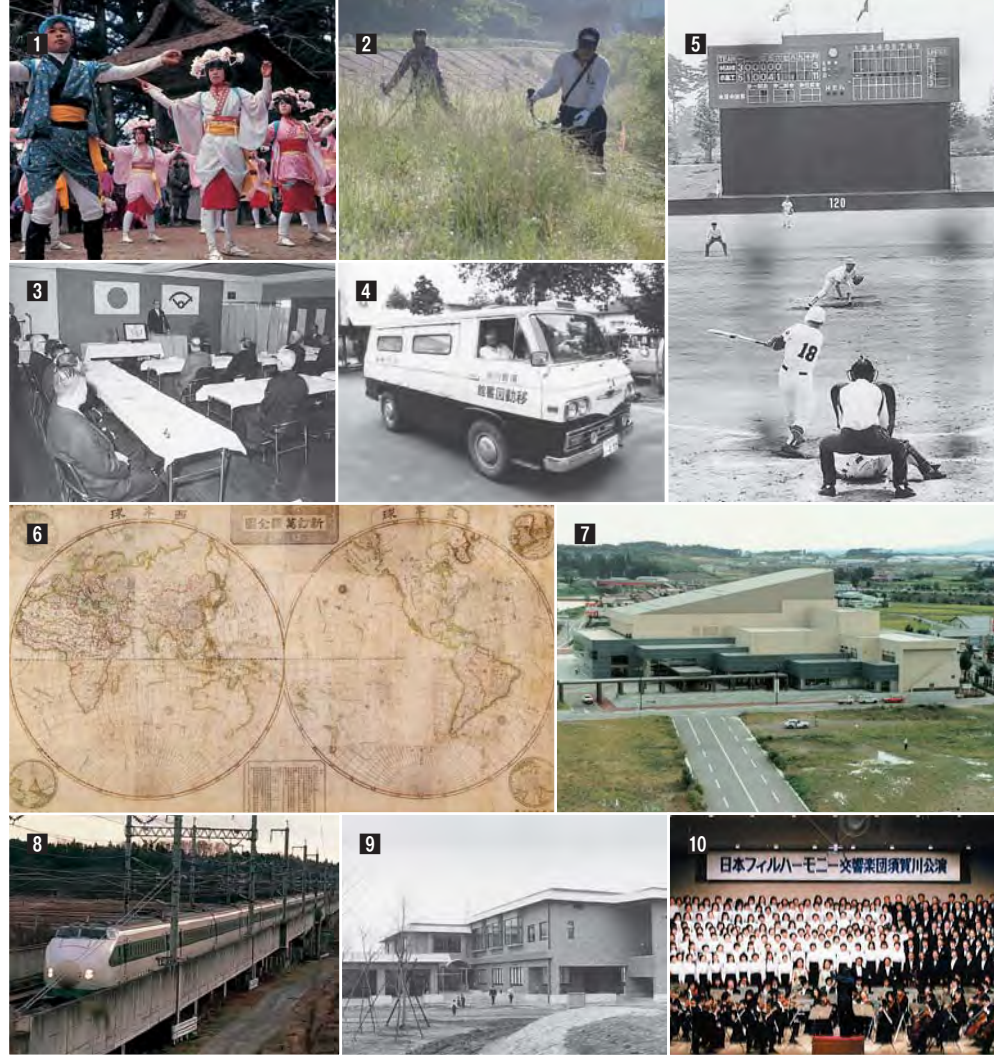


東北自動車道・須賀川IC

東京と青森を結ぶ東北縦貫自動車道の白河～郡山間が昭和48年11月に開通、同時に須賀川インターチェンジが完成しました。高速道路の開通により、首都圏との時間距離が短縮、経済交流の活発化による地方生活圏の整備拡充が期待されました。また、インターチェンジは東北地方の物流に大きく貢献。周辺にはトラックターミナルや配送センターなど流通業務施設が集まり、地場産業の発展を支えています。

市制施行20周年記念式典から市民温泉新築落成まで

優良都市として自治大臣賞を受賞 市民憲章、市の花、市の木を制定



1 33年に1度の古寺山自奉楽奉納 (S50) 2 昭和51年に始まった市民一日環境美化運動 (写真は現在の釈迦堂川ふれあいロードの環境美化運動) 3 優良都市として自治大臣賞受賞披露式 (S52) 4 移動図書館車「うつみね号」が運行開始 (S53) 5 牡丹台野球場にバックスクリーンとスコアボードを設置 (S54) 6 博物館の隣に歴史民俗資料館開館 (現在は統合)。写真は巫欧堂田善の「新訂万国全図」(S55) 7 文化センター新築落成 (S56) 8 東北新幹線の大宮～盛岡間開業 (S57) 9 市民温泉新築落成 (S58) 10 市民参加による「第九・合唱付」初演奏 (S58)

SUKAGAWA 1974~1983

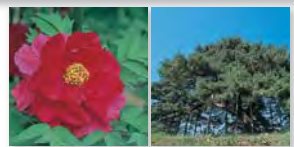
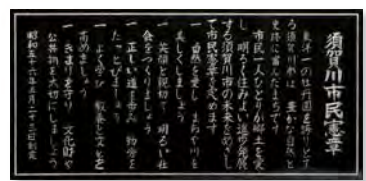
昭

和50年9月、須賀川市出身の実業家・坂本鉄蔵氏が初の名誉市民となりました。坂本氏は常に郷土の発展に意を注ぎ、経済的な理由などで大学教育を受けられない若者のための育英事業資金として本市に1億円を寄付。9月には財団法人坂本鉄蔵育英会が設立されました。

昭和51年6月には、市内の社会奉仕団体などの協力で初めて市全体での環境美化運動が実施されました。現在は釈迦堂川ふれあいロードで行われています。

日本に地方自治が発足して30周年を迎えた昭和52年、本市は総合的に行政運営が優れているとして自治大臣賞を受賞しました。「住んで安らぎのある都市づくり」への成果や堅実な行政執行の理由となりました。

そうした都市づくりのひとつとして、昭和42年から11年間にわたって整備が進められてきた牡丹台運動公園が昭和53年3月に完成。野球場、テニスコート、



市民憲章・ぼたん・あかまつ

市民アンケートをもとに、市民憲章と、市の花に「ぼたん」、市の木に「あかまつ」が制定されたのは、昭和56年5月です。市民憲章は昭和60年4月、市内の中学生200人が一文字ずつ刻み込んだ市民憲章碑となって、当時の市庁舎前の「市民の庭」に掲げられました。「ぼたん」は百花の王と呼ばれ、世界最大級を誇る牡丹園があることから選ばれ、「あかまつ」は当地方の代表的な樹木として選ばれました。

プール、体育センターなどが公園と一体となった新しいタイプの施設で、翌年7月には、牡丹台野球場にバックスクリーンとスコアボードが完成、高校野球大会会場の一つとして利用されました。

昭和56年5月、市民アンケートをもとに、本市のシンボルとなる市民憲章、市の花「ぼたん」、市の木「あかまつ」を制定しました。

また、昭和57年には、福島空港の建設地が「須賀川東」に決定したほか東北新幹線の大宮～盛岡間が開通するなど、高速交通体系の整備が進められました。

市役所に開館日の問い合わせが殺到するなど、多くの市民が利用を心待ちにしていた共同福祉施設がオープンしたのは昭和58年4月のことです。温泉のほかに、茶室などの設備も充実した憩いの施設で、温泉浴室は、一度に50人が利用できる広さ。現在は、「市民温泉」として親しまれています。

市制施行30周年記念式典から福島空港開港まで

8・5水害で初の災害救助法が適用 翼に夢を乗せて福島空港開港

市

制30周年を迎えた昭和59年、市民憲章碑の建設、記念植樹、記録映画の製作などが行われました。

また、昭和60年は、俳句を通じた文化育成や観光客との文化交流の一環として、市内20か所に俳句ポストを設置しました。現在は、24か所になっています。

昭和61年8月4日から5日の正午にかけて、福島県は記録的な豪雨に見舞われ、釈迦堂川と阿武隈川が氾濫。本市に初めて災害救助法が適用される事態となり、市内各所に大きな被害をもたらしました。

須賀川牡丹園保勝会創立30周年を迎えた昭和62年には、牡丹園正面入り口に日本庭園と牡丹姫像が完成しました。牡丹姫像は、友好都市・中国洛陽市との末永い交流の証として製作され、同市王城公園の牡丹仙子像がモデルになっています。

昭和63年には、時代の変化に応え、次代を担う人材の育成を目指した新しいカリキュラムを備えた県立清陵情報高校が開校しました。

元号が変わり、平成元年には

松明あかし4000年を記念して奥州松明太鼓が創設されました。初披露は平成元年11月11日午前11時11分11秒。「1」が11並んだ瞬間。松明太鼓は、市の郷土芸能として今も多くの市民や来訪者に愛されています。

平成2年元日、制定が待望されていた市旗が青空に翻りました。白地にスカイブルーの色調は須賀川の「空」をイメージしたものです。

平成3年には市の玄関口である須賀川駅の新駅舎が完成。市役所業務の一部を取り扱うコミユニティプラザも併設されました。現在は、市民交流、観光物産振興施設として利用されています。

「住みよい環境づくり」の基盤のひとつ、公共下水道整備事業は昭和51年度から進められ、平成4年10月からは一部地域で供用を開始。豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために、現在も事業は続けられています。

平成5年3月20日、福島空港が開港。須賀川駅新駅舎に続き、本市に新たな玄関口が完成しました。

1984~1993 S U K A G A W A

1 市制施行30周年記念植樹祭 (S59) 2 俳句ポスト設置 (S60) 3 8.5水害 (S61) 4 須賀川牡丹園正面入り口に日本庭園と牡丹姫像が完成 (S62) 5 県立清陵情報高校開校 (S63) 6 平成元年、松明太鼓初披露 7 市旗制定 (H2) 8 須賀川駅新駅舎落成式 (H3) 9 平成4年、公共下水道供用開始。写真は工事状況 10 花のまちづくりコンクール市町村の部で優秀賞受賞 (H5)



福島空港

平成5年3月20日、待望の福島空港が開港しました。午前10時40分過ぎ、大阪発の日本航空機が滑走路に着陸すると、詰めかけた2万人の見物客の間に拍手と歓声が沸き起こりました。一番機の就航に先立ち、開港式典も実施。福島県知事がファンファーレを合図に福島空港の開港を高らかに宣言した後、モニュメントの除幕式や旅客ターミナルの開館式など、次々に祝賀行事が繰り広げられました。

市制施行40周年記念式典から「すかがわ手作り市民劇」まで 「市の鳥」「市のマスコットキャラクター」を制定 国内初の森の中の博覧会「うつくしま未来博」開催



うつくしま未来博

須賀川市を会場に開催された「うつくしま未来博」は、日本で初めての森の中での博覧会として注目を浴びました。市うつくしま未来博ボランティアセンターの1300人を超えるスタッフが、PR活動や毎週日曜日の主要道路のごみ拾い、花いっぱい運動、駅での案内などを行い、全国からの来場者を温かく迎えました。



1 須賀川アリーナ落成 (H6) 2 ふくしま国体の卓球・銃剣道競技の会場に (H7) 3 きゅうりん館完成 (H8) 4 福島空港東側アクセス道路全線開通 (H9) 5 平成10年8月末豪雨災害 6 市のシンボルマーク「花のエンゼル」を制定 (H11) 7 福島空港2500m滑走路全面供用開始 (H12) 8 ムシテックワールド開館 (H13) 9 市指定文化財のうまや遺跡出土「和同開珎」と県指定重要文化財「稲古館古墳出土大刀」(H14) 10 市民劇「松明あかし物語」上演 (H15)

1994~2003

S U K A G A W A

平

成6年、市制施行40周年を記念し、市の鳥「かわせみ」と、マスコットキャラクター「ポータン」を制定しました。かわせみは阿武隈川付近で見られるコバルト色の羽に身を包む美しい小鳥。「ポータン」は松明あかしと牡丹をモチーフに、市内の小学生がデザインしたものです。

平成7年、ふくしま国体秋季大会開催。須賀川アリーナと市体育館で卓球と銃剣道競技が行われ、地元選手らも大活躍しました。

平成10年8月26日夕方から30日にかけて、「8・5水害(昭和61年)」以来となる記録的な豪雨が県南地方を襲い、阿武隈川流域にまたも甚大な被害をもたらしました。本市は雨水幹線や樋門・排水ポンプの整備事業を一層強化。国の「阿武隈川平成の大改修」とともに水害に強いまちづくりへの取り組みを進めています。

平成11年6月、福島空港の本格的な国際空港化の幕開けとして、上海便とソウル便の国際定

期路線が開設されました。さらに、翌年7月には2500メートル滑走路が全面供用を開始し、海外がより身近になりました。

国内外との交流はますます進められ、平成13年には、本市を会場として福島県博覧会「うつくしま未来博」が開催され、また、恒久施設として、ふくしま森の科学体験センター(愛称・ムシテックワールド)が同年11月に開館しています。

また10月には、牡丹焚火が環境省の「全国かおり風景百選」に認定されました。

文化面では若い力が大活躍。平成14年には、第一、第二中学校の合唱部が全日本合唱コンクール全国大会でそろって金賞を受賞。さらに第一小学校のマーチングバンドも全国大会優秀賞を受賞しました。

平成13年すかがわ手作り市民劇「明日を繋ぐ橋」平成15年には、松明あかしの発祥を庶民が主役でオリジナル劇を上演。10歳から82歳までのキャストやスタッフが須賀川の伝統を生き生きと描き出しました。



第 2 部

通史 [2004 - 2013]

どんな苦難にも屈することのない凜とした心。

東日本大震災からの復旧・復興へ向け、

試練を翼にかえ大きく羽ばたいた

激動の10年を振り返る、須賀川、明日への軌跡。

多くの市民がボランティアとして参加した市民手づくりの式典

市制施行50周年を迎え 住民参加の記念式典を開催



市制施行50周年記念事業
まちなか大発見わくわくウォーク
(4月18日)

S U K A G A W A

2004

須

賀川市は昭和29年に市制をスタートしてから、平成16年の3月31日に50周年の節目を迎えました。

50周年を前にした14年11月、多くの市民が参加して祝うことのできる記念事業とするため、市民から委員を募集して市制施行50周年記念事業実行委員会(市民実行委員会)が結成されました。市民実行委員会は、20歳代から70歳代までの27人で構成され、記念事業について様々な意見が交わされ、本市の歴史や文化を再認識する「まちなか大発見わくわくウォーク」や、市民による「みんなの合唱祭」などが計画されました。

記念式典は3月26日に挙行されました。開式の前に須賀川50年の歩みを振り返るビデオ放映があり、アトラクションとして「夢・すかがわ2050作文」の入賞作品の朗読や、中・高校生、一般市民約200人による合唱などが行われ式典に花を添えました。また、式典やアトラクションの様子は市ホームページなどで生中継されました。

賀川50年の歩みを振り返るビデオ放映があり、アトラクションとして「夢・すかがわ2050作文」の入賞作品の朗読や、中・高校生、一般市民約200人による合唱などが行われ式典に花を添えました。また、式典やアトラクションの様子は市ホームページなどで生中継されました。

記念式典は企画はもとより、当日の運営や受付をはじめ、会場案内、司会進行など、多くの



市制施行50周年記念式典

市民がボランティアとして参加しました。市制施行50周年を記念する式典は、まさに市民の手づくりの式典として盛大に開催されました。



中学生や高校生ら約200人で編成する市民合唱団



市消防操法競技大会 (6月27日)



全国高校野球選手権大会県大会で県立清陵情報高校が準優勝 (7月25日)



大東地区健康づくりの会がふれあいウォーキング大会を開催 (9月12日)

あきない広場アトリウム「まちなかプラザ」オープン

この年、中心市街地のあきない広場が、鉄骨造りガラス屋根の全天候型の多目的施設「まちなかプラザ」として生まれ変わりました。

施設内は、簡易な音響装置、展示スペース、休憩用ベンチやトイレなどが備えられ、各種展示会、フリーマーケット、町内会の催しやレクリエーション、ビデオ上映会など、様々な催しに対応できるようになっています。7月1日にオープンし、7月10日のオーブンイベントは、松明太鼓の演奏やよさこい踊りで盛り上がりしました。



開放感あふれる「まちなかプラザ」

須賀川産ブランド米の愛称「ぼたん姫」に決定

須賀川産のコシヒカリを地域のブランド米として売り出すため、本市とJAすかがわ岩瀬では、愛称とロゴマークを一般公募しました。

市内はもとより県内外から460点もの応募があり、9月6日に開催された選考委員会において、多数の応募作の中から最優秀賞は「ぼたん姫」に決定しました。10月11日に表彰式が行われ、同時に須賀川産のおいしいブランド米「ぼたん姫」の販売が開始されました。



第一中学校合唱部が全日本合唱コンクール全国大会で金賞と府中市教育委員会賞を受賞 (11月19日、報告会の様子)



11月10日、学校給食優良校として学校給食文部科学大臣表彰を受賞した西袋第二小学校



市制施行50周年記念事業「みんなの合唱祭」開催 (11月21日)

- ◎2月 須賀川史談会が(財)福島県文化振興基金顕彰を受賞
須賀川駅並木町線(北町坂)国道118号)の整備が完了
- ◎3月 市制施行50周年記念式典が市民ボランティアにより挙行。中学生や高校生ら約200人で編成する市民合唱団による市歌斉唱などが行われる
- ◎4月 白鳩保育園と若葉児童館新築開館
「カーテンタウン虹の台」50区画の分譲を開始
柏城児童クラブ館開館
市制施行50周年記念事業まちなか大発見わくわくウォークを実施
- ◎5月 下宿土地区画整理事業が完成し、この地域の名称が「下宿町」となる
市制施行50周年を記念して函館市から贈られたイチイの木50本を須賀川牡丹園内に植樹
- ◎6月 西袋中学校屋内運動場が文教施設協会賞を受賞、公立学校優良施設として表彰される
- ◎7月 あきない広場アトリウムの愛称が「まちなかプラザ」に決定し、供用を開始
須賀川市長選挙で相楽新平氏が無投票で当選(3期目)
- ◎8月 須賀川市・長沼町合併協定調印式
須賀川産コシヒカリ「ぼたん姫」発表会
須賀川市・岩瀬村合併協定調印式
- ◎11月 台風23号で224世帯に避難勧告、床上浸水10棟、床下浸水22棟
市制施行50周年記念事業「みんなの合唱祭」開催

それぞれの地域の自然環境・歴史・伝統文化を生かしたまちづくり

「新市誕生」須賀川市、長沼町、岩瀬村が合併する



200人が参加した席書大会 (1月8日)

S U K A G A W A

2005

平

成17年4月1日、須賀川市、長沼町、岩瀬村が合併して新しい須賀川市が誕生しました。

合併は、本格的な地方分権社会が進行し、多様化する市民ニーズに対応した質の高い行政サービス、行財政基盤の確立などを積極的に推進するためのもので、新しい須賀川市は人口8万人余りとなりました。

合併の経緯としては、平成12年に市内に「広域行政に関する研究会」が設置され、約一年間をかけて合併に関する調査、研究を行いました。その結果、13年3月に「地方分権社会の本格的到来の中で、市町村合併は避けては通れない重要課題であり、今後本格的に検討する必要がある」と



長沼支所開所式 (4月1日)

の報告書がまとめられました。平成14年7月に合併の賛否などに関して市民の意見を聞く「まちづくり市民意識調査」(2千人を抽出、回収率27・5%)を実施したところ、合併賛成が48・4%、反対が24・9%、分らないが23・6%という結果が出ました。平成16年には「須賀川市・

長沼町合併協議会」、「須賀川市・岩瀬村合併協議会」が、相次いで設置され、住民に合併についての情報を提供しつつ、新市建設計画など、様々な項目について協議されました。

こうした取り組みを経て平成17年4月1日に新しい須賀川市が誕生し、文化センターで福島県知事をはじめ関係者約600人が参列し合併記念式典を挙行しました。

新たな一歩を踏み出した本市は、それぞれの地域が持つ個性や歴史、伝統文化、自然環境などの貴重な資源を生かしたまちづくりを目指すこととなりました。



須賀川市、長沼町、岩瀬村の合併記念式典を挙行 (4月1日)



岩瀬支所開所式 (4月1日)



笑顔が集う須賀川市成人式 (1月9日)



みんなで飾った雛人形展 (3月)



夏季少年健全育成球技大会 (7月30、31日)

須賀川市役所がISO14001の認証を取得

地球環境を守り、持続可能な社会の実現を目指すという時代の要求に応え、須賀川市役所では地球環境の保全に向けて積極的に取り組みを進め、ISO14001の認証を取得しました。

ISO14001は、環境マネジメントシステムを構築するために満たすべき必須事項を定めた国際規格です。「紙、ごみ、電気」を削減するエコオフィス活動をはじめ、環境保全を効率的、かつ継続的に行うシステムを構築し、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から循環型社会へ移行することを目指しています。現在は、本市独自のシステムにより効率的な取り組みを推進しています。



ISO14001登録証

すかがわ手作り市民劇 第3弾「乙女桜」貴方がいて私がいる」が上演



すかがわ手作り市民劇第3弾「乙女桜～貴方がいて私がいる～」

8月6日・7日、文化センターで、すかがわ手作り市民劇の第3弾「乙女桜」貴方がいて私がいる」が上演されました。今回の市民劇は、須賀川桐陽高校にある「種まき桜」と「太郎松」にまつわる悲しい伝説がモチーフ。フィナーレの「貴方は一人

じゃない。周りの人たちがいて、支えあって生きていくことを」という言葉は、観客に大きな感動を与えました。



岩瀬グリーンロードレース大会 (6月5日)



掛け声が響く長沼まつり (9月10日)



2005ふくしまふるさとCM大賞で大賞受賞

- Chronicle of 2005
- ◎1月 西袋中学校屋内運動場が福島県建築文化賞特別部門賞を受賞
 - ◎2月 市役所がISO14001の認証を取得
名古屋路線初便が就航
 - ◎3月 長沼町閉町式
岩瀬村閉村式
 - ◎4月 「新市誕生」須賀川市、長沼町、岩瀬村が合併し合併記念式典を挙行。長沼支所・岩瀬支所開所式
合併後初の臨時議会を開催
北町あじさい公園・北町坂竣工記念式
「読み聞かせの会ポケット」が文部科学大臣表彰を受賞
 - ◎5月 下宿土地画整備事業竣工式
 - ◎6月 「須賀川に清流を取り戻す市民の会」が地域環境保全功労者環境大臣表彰受賞
第三小学校が環境省環境管理局水環境部長表彰受賞
「松明あかし炎のレクイエム」が日本産業映画ビデオコンクール大賞を受賞
 - ◎9月 公立岩瀬病院が救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞
 - ◎10月 教育委員会研修用バス「牡丹工ゼル号」運行開始
 - ◎11月 2005ふくしまふるさとCM大賞で大賞を受賞

疾走するゼッケン「6」、16人の選手がつかないだ栄光の軌跡

福島県縦断駅伝競走大会で 須賀川市チームが初優勝



ふくしま駅伝表彰式
(11月19日)

S U K A G A W A

2006

平

成年年に第1回が開催された市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会は、県民の恒例行事として定着しています。コースは白河市から福島市に向けて福島県の中央部を縦断するもので、県内の市町村対抗で行われています。

本市も毎年参加しており、平成18年の第18回大会では悲願の初優勝を果たしました。大会は11月19日に開催されました。午前7時50分、53人のランナーが白河総合運動公園陸上競技場をスタートし、96・2キロメートル先の福島県庁を目指しました。

須賀川市チームは安藤昭人監督のもと、中学2年生から社会人までの16人の選手が気持ち一つにしてたすきをつ



16人の選手のきずなで勝ちとった優勝旗

なぎました。大会の模様はテレビでも中継され、沿道で声援を送った人たちのほかに、多くの市民がテレビの前でゼッケン「6」をつけた本市の選手を応援しました。スタートからおよそ5時間後、福島県庁前のゴール地点で待つ選手とスタッフの目に、



トップでゴールテープを切る半田選手
(福島民報社提供)

須賀川市チームのアンカー半田選手がトップで飛び込んできました。先に走った選手とスタッフは勝利を確信していましたが、半田選手は2位のチームとのタイム差が分からず、必死にラストスパートをかけゴールテープを切りました。



10月25日、今泉橋が竣工
(写真は10月27日の今泉橋渡橋式)



須賀川地域安全安心ステーション開設 (4月3日)



長沼東保育所開所式 (4月5日)

「円谷幸吉メモリアルホール」オープン

10月14日、須賀川アリーナに「円谷幸吉メモリアルホール」がオープンしました。

昭和39年、東京オリンピックのマラソンで銅メダルに輝いた円谷幸吉選手。この不世出の名ランナーは昭和15年、本市に生まれました。円谷選手は東京オリンピックをはじめ、数々の国際大会に出場して活躍しましたが、足のけがや腰の不調、精神的な重圧に悩み、メキシコオリンピックを前に自らの命を絶つてしまいました。享年27歳の短すぎる生涯でした。

「円谷幸吉メモリアルホール」では、その偉業を長く後世に伝えることを目的に、円谷家から寄贈された貴重な遺品を展示しています。



円谷幸吉メモリアルホールオープン



SUS (株)と土地売買契約を調印 (拡張用地)

SUS株式会社と土地売買契約を調印

平成13年に開かれた博覧会「うつくしま未来博」の会場跡地に、先進の産業を集積し、職・住・遊・学の機能を合わせ持つ新たな都市として須賀川テクニカルリサーチガーデンが整備されています。

自然豊かな地域環境や福島空港にも近い立地から、東北進出を図る全国の企業に向けて、積極的に誘致が進められています。

この年、アルミ製機器製品の製造販売を行う「SUS株式会社(本社静岡県静岡市)」との間に平成15年の土地売買契約に続き、第2工場の拡張用地の土地売買契約が成立し、11月9日調印が行われました。現在アルミ構造材の製造から組み立て販売を行う事業用地として活用されています。



大阪路線搭乗者300万人達成 (3月8日)



第22回長沼まつり (9月9日)



旧暦のうるう年に行われる榊神社太鼓獅子 (10月1日)

- ◎3月 須賀川市土地改良区が第47回全国土地改良功労者銀賞受賞
「新生須賀川水環境整備計画」が内閣府の地域再生計画に認定される
- ◎4月 中央、西部、東部、長沼・岩瀬地域包括支援センターが設置される
須賀川駅併設コミュニティプラザ内に「須賀川地域安全安心ステーション」が開設される
榊地区に改築された長沼東保育所開所式
- ◎5月 西袋第二小学校が平成17年度全日本学校関係緑化コンクール準特選(国土緑化推進機構会長賞)を受賞
- ◎6月 第三小学校が環境保全功労者等環境大臣表彰(地域環境保全功労者)受賞
丸田翠ヶ丘線池上町工区開通
- ◎7月 須賀川アリーナに円谷幸吉メモリアルホール開設(オープンセレモニーは翌年1月)
- ◎10月 今泉橋が竣工(今泉・柱田地内)
- ◎11月 SUS(株)と須賀川テクニカルリサーチガーデン企業用地土地売買契約調印
第18回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会(ふくしま駅伝)で須賀川市チームが悲願の初優勝を飾る
- ◎12月 フクイシンター(株)と須賀川テクニカルリサーチガーデン立地協定・土地売買契約調印

Chronicle of 2006

福祉の拠点施設、そして中心市街地活性化の一翼として

少子高齢化社会を見据えて 総合福祉センターがオープン



33年ぶりに古寺山自奉楽が奉納される(4月26日)

S U K A G A W A

2007

中

心市街地の松明通りに面した空き店舗を利用して、平成19年4月1日に総合福祉センターがオープンしました。この空き店舗はかつて中心市街地のシンボルでもあったデパートでしたが閉店によって地域の空洞化が危惧されていました。総合福祉センターは少子高齢化に対応する福祉拠点のほかに、街なかに賑わいを創出することで中心市街地の活性化を図る目的をもって整備されました。



総合福祉センターオープニングセレモニー

2階は福祉行政機能として、市の社会福祉課と高齢福祉課が配置され、須賀川市社会福祉協議会も総合福祉センターに移転しました。3階には子育て支援の機能、4階には学習機能を備え、5階には催事や展示ができる大規模なスペースも設け

られました。総合福祉センターのオープンに際しては、須賀川商工会議所主催の「角田磐谷展」が開催されました。角田磐谷画伯は石川町出身で、大正末期から昭和にかけて活躍した日本画家です。画伯は戦後須賀川牡丹園近くにアトリエを構えていたことから、市民から「牡丹の磐谷」と称された須賀川を代表する近代画家の一人です。総合福祉センター開設後は、福祉の拠点として市民が活用し、センター内のキッズコーナーには親や祖父母に連れられた子どもたちが訪れるなど、中心市街地の活性化の一翼を担ってきましたが、東日本大震災で被災し、閉鎖されました。



総合福祉センター内のキッズコーナーは子どもたちに大人気



合併後初の選挙で当選した市議会議員(4月22日)



白方小学校「一本松」とのお別れ会(12月22日)



ちびっこ市民バス(8月10日)

新たな子育て拠点 白江こども園が開園

4月7日、0歳児から就学期までの乳幼児に一貫した教育、保育を行う新たな施設として、白江こども園が開園しました。この施設は、これまでの白江幼稚園に保育園と子育て支援センターの機能を兼ね備え、親子が安全な遊び場でふれあい、くつろぎ、母親同士が気軽に交流できる場を提供しています。また、子育てに関する情報の提供、困りごとや悩みごとについて気軽に相談できる窓口も開設しています。開園式では、関係者約50人が見守る中、園児2人も参加してテープカットが行われました。



笑顔いっぱい白江こども園

東部環状線が全線開通



東部環状線の全線開通式

街中の交通混雑を解消するために、昭和59年度から整備が進められてきた東部環状線が、着工から23年を経て4月3日に全線開通しました。東部環状線は、須賀川市池下の国道4号から広表の国道118号バイパスまでの市街地東部を縦断する、総延長5.11キロメートル、幅員22メートルの都市計画道路です。沿線には、将来の発展を展望して大型商業施設が相次いで進出しています。待望の道路の開通により、周辺の交通事情の改善が図られるとともに、沿線の利便性が大きく向上しました。



藤沼湖畔マラソン大会(8月19日)



ふれあいまつり(9月9日)



養老孟司ムシテックワールド館長の特別講座(10月6日)

◎1月 窓口のワンストップサービス開始
 (南山製作所と須賀川テクニカルリサーチガーデン立地協定・土地売買契約調印)

◎3月 戸籍事務のコンピューター化
 市役所・総合福祉センターに住民票などの自動交付機設置
 地域イントラネットが稼働
 栄町遺跡のモニユメントが設置される
 災害時の医療救護活動協定を調印

◎4月 総合福祉センターオープン
 東部環状線が全線開通
 白江こども園開園
 合併後初の市議会議員選挙
 33年ぶりに古寺山自奉楽が奉納

◎5月 長沼まつり実行委員会がみんゆう県民大賞ふるさと賞受賞
 ムシテックワールドの入館者が30万人を突破

◎7月 「田ここの月かげ」上演
 (南イシイテックと須賀川テクニカルリサーチガーデン立地協定・土地売買契約調印
 女声合唱団「すかがわ」が全日本お母さんコーラス全国大会お母さんコーラス大会受賞

◎8月 すかがわ手作り市民劇第4弾「田ここの月かげ」上演
 (南イシイテックと須賀川テクニカルリサーチガーデン立地協定・土地売買契約調印
 女声合唱団「すかがわ」が全日本お母さんコーラス全国大会お母さんコーラス大会受賞

◎10月 第二中学校吹奏楽部がこども音楽コンクール東北大会最優秀賞受賞・全国大会出場

◎12月 白方小学校「一本松」とのお別れ会

Chronicle of 2007

自らのまちを自らつくる、市民との協働によるまちづくりを推進

市制施行以来、6人目の市長として 橋本克也氏が初当選を果たす



牡丹大使の演歌歌手
門倉有希さんのミニトークショー
(5月9日・須賀川牡丹園)

S U K A G A W A 2008

平 成20年7月13日、前職の任期満了に伴う須賀川市長選が告示され、7月20日に投票が行われました。当時の有権者数は63,507人、投票者数は36,671人、投票率は57.74パーセントでした。

当選したのは福島県議会議員を4期務めた無所属で新人の橋本克也氏。
橋本氏は8月11日の市長就任後、市勢進展と8万市民の危機管理に全力を尽くさなければならぬ職責の重さを改めて感じていると、述べるとともに、福島空港からのJAL撤退については、福島県及び隣接市町村と連携を図り、新たな展開も含めて、しっかりと対応することを表明しました。



橋本新市長が初登庁(8月11日)

また、市民の生命と健康を守るための地域医療の確保と、産業振興による地域経済の循環に活路を見出すための施策についても早急に取り組んでいく決意を表明。
さらに今後の市政運営については、「意識・価値観の共有」「ネットワークの活用」「スピリット感を持った行政経営」を

環の理念」という4つの考え方を基本とし、生活、産業、医療、福祉、教育、文化、環境などのあらゆる分野の課題に取り組みでいくという方針も打ち出しました。
地方自治体を取り巻く環境が厳しさを増すなかで、自治に対する住民の意識の差が他の自治体との差になるとの考えから、市民との協働を強く訴えかけた橋本新市長による新たな須賀川の市政がスタートしたのです。



市役所正庁で行われた
当選証書付与式



白方こども園の開園式(4月8日)



三世交代流館で行われた「むかしの正月料理」
(12月20日)



ほたる&水とみどりのふるさとまつり(7月27日)

須賀川牡丹園保勝会が「花の観光地づくり」奨励賞を受賞

国内有数の規模と歴史を誇る須賀川牡丹園を管理運営する財団法人須賀川牡丹園保勝会が、8月7日、日本観光協会「花の観光地づくり」奨励賞を受賞しました。

この賞は花の名所や景観を整備する「花の観光地づくり」事業を推進し、地域の観光振興に寄与している団体などを表彰し、さらなる発展を支援するために設けられたものです。

1766年、薬用に栽培されたのが始まりという歴史ある須賀川牡丹園。その価値ある牡丹の数々を丹精に守り育て発展させてきた努力が評価されている受賞です。これを弾みとし、観光資源としていっそう脚光を浴びることが期待されています。

すかがわ国際短編映画祭 20回記念の映像コンクール開催

世界中から選りすぐったドキュメンタリーやドラマ、アニメなどの短編映画を上映し、市民に親しまれてきた「すかがわ国際短編映画祭」。



第20回すかがわ国際短編映画祭(5月10・11日)

がわ国際短編映画祭。平成元年に始まったこのイベントが、この年、第20回を迎えました。この節目を記念して「映像コンクール」が開催され、県内外から31本にのぼる作品が寄せられ、秀作6作品が入賞しました。
5月10日には、文化センターを会場に、応募作品の上映と結果発表、表彰式が行われました。当日は、日本の短編アニメの第一人者・山村浩二氏によるゲストトークなども行われ、会場は熱気に包まれました。



高齢者市政トークキングが岩瀬地域を皮切りにスタート(10月8日)



すかがわ産業フェスティバル(10月25日・26日)



まちなかブライザイルミネーション点灯式(11月21日)

Chronicle of 2008

- ◎3月 初のドクターヘリ・デモフライトシミュレーションを実施
福島空港開港15周年イベント開催
- ◎4月 白方こども園開園
友好都市締結15周年を迎え、市と日中友好協会などが中国洛陽市を訪問
須賀川・長沼・岩瀬の3地域水道事業の統合
- ◎5月 すかがわ国際短編映画祭第20回記念映像コンクールを開催
南部地区まちづくり推進に関する協働基本合意書の調印式が行われる
- ◎6月 西袋第二小学校が全日本学校関係緑化コンクール学校環境緑化の部準特選を受賞
南部地区(3地区)のまちづくり協定が県の優良景観形成住民協定として知事認定
- ◎7月 奥州須賀川松明太鼓保存会創設20周年記念式典が行われる
任期満了に伴う須賀川市長選挙で橋本克也氏が初当選
- ◎8月 須賀川牡丹園保勝会が日本観光協会花の観光地づくり奨励賞を受賞
- ◎10月 第三小学校校舎新築工事の安全祈願祭
阿武隈川かわせみウォーキングコースオープン

須賀川に暮らす子育て世代と高齢者の豊かな暮らしのために

こども医療費助成制度により 医療費無料化を小学6年生まで拡大



牡丹園内で市民団体などの各種イベントを開催 (5月16日のお笑いライブ)

S U K A G A W A 2009

須 賀川市では、これまでに子育て支援の環境として、県の補助

制度である「乳幼児医療費助成制度」を活用しながら、乳幼児医療費の無料化を推進し、平成13年からは、小学校就学前までの子どもの医療費を無料にしました。
しかし、少子化は年々進行しており、更なる子育て支援策の強化を図る必要があるため、平成21年10月から、市の単独の財源によって、新たに「こども医療費助成制度」を設け、無料化の対象年齢を拡大し、小学校6年生までの子どもの医療費の無料化を実現しました。
この制度が子育て中の家庭への経済的な支援の一助となり、少子化の進行に少しでも

歯止めが掛かるとともに、将来の地域社会を担っていく子どもが増えていくことによって、高齢社会対策にもつながるものと期待されています。
子ども医療費無料化の拡大は、本市に暮らす若い世代が、少しでも安心して子どもを産み育てることができ、環境を整えるとともに、高齢者もまた安心して暮らしていける地域社会を築いていくことを目指すものです。



子育て世代に優しい医療費無料化の拡大 (4月6日、長沼小学校に入学した新1年生)



大相撲須賀川場所 (8月7日)



交通安全鼓笛パレード (5月26日)



松明あかし前夜に開催の「八幡山えん義」 (11月13日)

地域医療を語る会が 西袋公民館から始まる

7月29日、第一回地域医療を語る会が、西袋公民館で開催されました。
この取り組みは、10月1日に始まる小学6年生までの医療費無料化で危惧されていた「コンビニ受診」を事前に防ぐためのものです。緊急性の低い軽症の患者が時間外に受診する、いわゆる「コンビニ受診」の増加は、医師の疲弊を増長することはもちろん、重症救急患者への対応にも重大な影響を及ぼしかねない問題です。
この問題を解決するために、市では須賀川医師会と共同で地域医療を語る会を公民館単位で開催。利用者の賢い受診で地域医療を守る取り組みが進められています。



地域医療を語る会 (7月29日)



市乗合タクシー出発式 (2月2日)

乗合タクシーの 運行スタート

2月2日から地域を限定して乗合タクシーの運行が開始されました。乗合タクシーは、通院や買い物に出掛ける際、バスなどの公共交通機関の利用が不便な地域を対象に運行するものです。
一般のタクシーとの大きな違いは、複数の利用者による乗合方式であること。利用者が時刻表に合わせて事前に予約すれば、自宅そばから目的地まで送迎サービスが受けられます。利用料金は片道500円。この新たな公共交通手段を継続していくためには、乗り合いで効率的に運行することが重要なため、「友人知人、隣近所を誘い合わせ、上手に利用しましょう」と呼び掛けられました。



福島空港の国際線就航10周年 (6月27日)



歌舞伎俳優の中村吉右衛門さんが記念植樹 (7月9日)



新しい第三小学校校舎に引っ越し (12月22日)

Chronicle of 2009

- ◎2月 乗合タクシーの出発式が、まちなかブラザで行われる。定額給付金対策室を開設
- ◎4月 更生保護活動サポートセンターが総合福祉センター内に開設。須賀川・岩瀬地方緑化推進委員会合同植樹祭を藤沼湖自然公園で開催
- ◎5月 すがわ国際短編映画祭でアカデミー賞短編アニメ部門受賞監督の加藤久仁生氏を特別ゲストに迎える
- ◎7月 松竹大歌舞伎で来須した歌舞伎俳優中村吉右衛門さんが牡丹園内で牡丹を記念植樹。須賀川医師会との共同開催による「地域医療を語る会」が西袋公民館から始まる
- ◎8月 大相撲須賀川場所が須賀川アリーナで開催。市民を対象としたバスポート取得事業を行い、バスポートの申請受け付けを実施
- ◎10月 こども医療費助成制度を創設し、こども医療費無料化の対象を小学6年生まで拡大。「須賀川の観光と物産展」を東京の福島県八重洲観光交流館で開催
- ◎12月 第三小学校校舎改築完成

防災機能や環境に優しい配慮が取り入れられた交流空間

市民と行政の協働活動で整備した 地域住民の憩いの場「結の辻」開所



円谷幸吉選手生誕70周年記念の
第28回円谷幸吉メモリアルマラソン

SUKAGAWA 2010

松

明通りに面した場所に、地域住民や観光に訪れた人々の憩いの場所として「結の辻」が整備されました。開所式は平成22年7月10日に行われ、開所式の後には、地元の関係者で組織する「風流のまち創出プロジェクト」が主催する昔あそびなどのイベントが行われ、子どもたちを始め多くの市民が訪れました。

この広場は、「県道須賀川・二本松線街路整備事業」と同時に進められている「須賀川南部地区都市再生整備事業」によって整備されたもので、「結の辻」という名称は、供用開始に先立って公募されたものの中から選ばれたものです。あずま屋にある固定式のベ

ンチは、天板を外すとかまどになり、広場で行われるイベントで使用されるほか、災害時の炊き出しに活用できるものです。そのほか、災害時にも水洗トイレが使用できる仕組みなど、防災機能を備えた広場としても注目されました。また、トイレの電気はあずま屋の屋根に設置されたソーラーパネルの電力で賄い、あずま屋やトイレの屋根には須賀川産の赤瓦を再利用するなど景観と環境への配慮が随所に取り入れられています。



「結の辻」は新しい憩いの場



消防操法大会（6月27日）



牡丹大使の落語家桂幸丸さんなどが彩りを添えた園遊会（5月6日・須賀川牡丹園）

組織機構改革による 新たな組織体制がスタート

市民サービスの一層の充実を目指して、新年度となる4月1日、市の組織機構が改編され、新たな組織体制がスタートしました。組織機構改革の基本方針は次の4点です。

- ① 市政をより効率的に推進する組織体制
- ② 類似事務事業の統合による組織の簡素・合理化
- ③ 分かりやすく利便性の高い組織
- ④ 新たな行政課題などに対応した組織体制の充実

この改革により、1課3係減となりました。部・課の名称についても、業務の実態に合わせて、市民に分かりやすい名称に変わりました。

少子高齢化や人口減少社会の到来など時代の変化に対応し、より無駄のない分かりやすい行政組織が整備されています。

全小学校区に 児童クラブの設置が完了

大森小学校に児童クラブが開館し、10月1日の開館式には、地域関係者が参加して児童クラブの開館を祝いました。



大森小児童クラブ開館式

テープカットに続き、橋本市長のあいさつ、参加者全員による記念撮影などが行われ、会場は終始和やかな雰囲気になりました。

児童クラブは、就労などで昼間保護者がいない家庭の小学校1年生から3年生までの児童を対象に放課後の「生活」の場を提供し、「遊び」や「生活」を通して子どもたちの健全育成を図ることを目的とする事業です。

今回の児童クラブ開館により、市内の16小学校学区に児童クラブの設置が完了しました。



養老孟司ムシテックワールド館長が牡丹園に植樹
（10月23日）



岩瀬地域の市敬老会（9月18日）



暴力団等排除措置要綱運用協定を締結（7月1日）

10月	9月	7月	6月	5月	4月	1月
大森小児童クラブ開館により全小学校学区に児童クラブの設置が完了	文化講演会が文化センターで行われ、三遊亭円楽師匠がユーモアを交えたトークを披露 円谷幸吉生誕70周年記念第28回円谷幸吉メモリアルマラソン大会が行われる	「市の締結する契約書等に係る暴力団等排除措置要綱運用協定」を締結 市民と行政との協働活動で整備した地域住民の憩いの場「結の辻」が本町に開所 「大規模災害時における一般廃棄物の収集運搬の協力に関する協定」を締結 東部地区を中心とした降ひょうと突風による農作物の被害に対応するため、「農作物異常気象災害対策本部」を設置	消防操法大会が市民スポーツ広場で行われ、ポンプ車の部で第12分団今泉班、小型ポンプの部で第6分団上江持班がそれぞれ優勝	すががわ国際短編映画祭でゲストに迎えた中島清文三鷹の森ジブリ美術館長が短編映画への思いを語る	市の組織機構改革を行い、新たな組織体制がスタート	学校給食米粉パンの試食会が仁井田小学校で開かれ、橋本市長も出席して児童たちと一緒に米粉パンの給食を試食

震災発生直後から24時間体制で応急支援・復旧に全力を尽くす

須賀川を襲った東日本大震災、復旧そして復興に向かって



被災した市役所庁舎（2階）

S U K A G A W A

2011

平

成23年3月11日に発生した東日本大震災。須賀川市では震度6強を観測しました。この震災で市庁舎が大きな被害を受け使用不能となる中、市では地震発生直後から24時間体制で被害調査、避難所の開設、市民からの相談対応、ライフラインの復旧などに全力で取り組みました。

市内各地で建物や道路が大きな被害に見舞われましたが、中でも長沼地域にある藤沼湖は、堰堤が決壊し下流の家屋が流失しました。これにより7人の尊い命が奪われ、1人が行方不明になるといいます。本市始まって以来最悪の被害となりました。最終的に震災による死者の数は市全体で11人（平成26年



第一小学校の校庭崩落

2月27日現在）となり、市内全域の家屋の被害は全壊1249戸、大規模半壊418戸、半壊3085戸、一部損壊10570戸で合計15322戸にのぼりました。また、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による対応にも迫られ、放射線スクリーニ

ングや飲料水のモニタリングなどを行うとともに、市民への正確な情報提供にも努めました。

震災当日、市内20か所の避難所が開設され、給水や炊き出しなど避難者に対する支援が早急に開始され、復旧活動も迅速に行われました。応急支援が必要な時期が過ぎてからは、中期の復興計画を策定し、震災からの復旧・復興、更なる市勢発展に向けて全力で取り組んでいます。



東日本大震災で被災した藤沼湖



松塚地内の市道崩落

新たなコースも加わり便利になった循環バス

東日本大震災では市庁舎などが被災し、各行政機能が市内各所に分散。5月に運行を開始した循環バスは、市内に分散した市役所各部署への交通手段として多くの市民に活用されています。

翌年1月には循環バス運行開始当初からのコースに加え、その逆まわりのコースとなる「市内循環市民温泉先回り」コースも運行をスタート。循環バスは、平成21年度に市が

策定した公共交通マスタープランである市総合交通ビジョンの一環として、整備されたものですが、市民ニーズを反映し充実が図られています。

台風15号、須賀川に甚大な被害を及ぼす

9月21日、日本列島を縦断した台風15号は記録的な豪雨で本市に大きな被害をもたらしました。釈迦堂川や阿武隈川では、いずれも過去最高の水位を記録。

台風当日、市や消防団を始めとする各防災関係機関は河川の氾濫に備えるとともに、市内各地で発生した住宅や事務所などの浸水の対応に当たりました。また、道路や農地の冠水、さらには土砂崩れも発生し、関係機関と連携をとりながらの総力戦となりましたが、幸い人命に関わる被害はありませんでした。



県立須賀川高校が夏の高校野球福島大会準優勝（7月28日）



毘沙門尊天初寅大祭（2月3日）



882人が大人の仲間入りをした市成人式（1月9日）



台風15号の影響で増水した釈迦堂川



従来より半年遅く開催された交通安全鼓笛パレード（10月26日）



すかがわ産物フェスティバル（10月22、23日）



歌手の長洲剛さんから市民へのメッセージを手渡す悦子夫人（4月7日）

◎1月 住民票の写し、印鑑登録証明書のコンビニ交付サービス開始
長沼支所2階にふるさとの民具展示室がオープン

◎2月 11日、午後2時46分、太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震（東日本大震災）が発生。本市では震度6強を観測し、甚大な被害をもたらす。長沼地域の藤沼湖の堰堤が決壊して大規模な水害も発生。余震による被害も含め、これらの災害により、市内全域で10人が死亡、1人が行方不明となる（最終的に平成26年2月27日、死者11人となった）

◎3月 市体育館内に、震災の被害に対する総合相談窓口を開設
歌手・長洲剛さんの夫人の悦子さん、長洲剛さん、長洲さん直筆の市民へのメッセージなどを橋本市長に手渡す
すかがわさいがいFM放送がスタート

◎4月 牡丹会館オープン
分散した市役所各部署への交通手段として循環バスの運行開始
天皇皇后両陛下が、福島空港を利用され被災した福島県を訪問。避難所などを回られる
神奈川県座間市観光協会などの協力による「ひまわり咲かせようプロジェクト」の開始式

◎5月 須賀川サポーターズクラブが発足

◎6月 第93回全国高校野球福島大会決勝で、県立須賀川高校が聖光学院と対戦し、準優勝の大健闘
（株）製作所と須賀川テクニカルリサーチカーテン企業用地リース契約調印

◎7月 台風15号の影響で釈迦堂川、阿武隈川とも過去最高の水位を記録。住宅や事業所の浸水や土砂災害など、本市に甚大な被害をもたらす
神奈川県座間市と災害における相互応援に関する協定を締結
震災復興計画を策定

◎8月

◎9月

◎11月

◎12月

子どもたちの心と体を育む遊びの数々が大好評

屋内子ども遊び場「すかがわキッズパーク」



長沼・岩瀬地域の
敬老会（9月17日）

S U K A G A W A

2012

東

日本大震災により発生した原発事故の影響で、子どもたちを外で遊ばせることに不安を抱えているお母さんたちの声に応える待望の施設が誕生しました。その名も「すかがわキッズパーク+PLAY」。7月27日、茶畑町の労働福祉会館で1階にオープンしたこの屋内子ども遊び場は、子どもたちに遊んでもらう場所を提供するとともに、お母さんやお父さんたちの不安を少しでも解消したいという思いから設置されたものです。



歌手の水前寺清子さんがNHK番組の取材でキッズパークを訪問

平方メートルのスペースに、大型遊具やボールプール、落書きの森、マグネットツリーなど、子どもたちの心と体をたくましく育む遊びの数々が用意され、自由な発想で遊ぶことができます。また、読み聞かせスペースもあり、親子でゆっくりと絵本を読むなど

して過ごすこともできます。放射線への不安もなく、たっぷり遊ぶことができます。この施設。オープン以来、連日多くの子どもたちが訪れています。また暑い季節は涼しく、寒い季節は暖かく遊べると大好評。子どもたちが楽しく遊べる場としてだけでなく、子どもを連れてきたお母さんたちの交流の場としても活用されています。



ちびっ子たちでにぎわうキッズパーク



消防団の出初式（1月4日）



嘱託員委嘱状交付式（4月7日）



大東小学校新校舎で（12月21日）

東日本大震災「犠牲者追悼式」開催

平成23年3月11日に発生した東日本大震災。この震災により甚大な被害を受けた本市の死者・行方不明者は11人及びました（最終的に平成26年2月27日、死者11人となりました）。

震災から1年を迎えた平成24年3月11日、文化センターにおいて犠牲者追悼式を挙行し、犠牲者をしのび哀悼の誠を捧げました。当日は市民や来賓約200人が参列し、黙とうを行い亡くなられた方々のご冥福を祈りました。参列者は、この大災害を強く心に刻み、後世に伝えていくとともに、一日も早く震災からの復興を成し遂げ、私たちの故郷「須賀川」のすばらしさを取り戻すことを改めて誓い合いました。

文化センターで行われた追悼式



「第12回全国菜の花サミット in ふくしま」華々しく開催



約600人が集った全国菜の花サミット in ふくしま

4月28・29日、文化センターを主会場に「第12回全国菜の花サミット in ふくしま」が開催されました。第一小学校の児童による合唱で幕を開けた菜の花サミットは、「バイオマスエネルギー村の取り組み」についての基調講演、「菜の花の栽培技術」、本市が取り組む「菜の花プロジェクト」など、各ゲストからの発表に約600人の参加者が耳を傾けていました。

2日目には分科会、エクスカージョン（野外調査）を実施。菜の花プロジェクトを始めとする地球環境に配慮した地域資源循環型まちづくりの取り組みなどについての発表が行われました。



2期目の当選を果たし初登庁する橋本市長（8月13日）



多くの来場者でにぎわった「いわせ悠久まつり」（10月21日）

Chronicle of 2012

- ◎1月 長沼地区循環バスの運行開始
- ◎2月 北海道長沼町と災害時における相互応援に関する協定締結
大阪府豊中市と「空港で結ぶ友好都市提携に関する協定」を締結
- ◎3月 東日本大震災の発生から1年、犠牲者の冥福を祈り、東日本大震災犠牲者追悼式を挙行
大震災で発生した藤沼湖決壊による被災地復興に関する覚書の調印式が行われる
- ◎4月 本町にある「結の辻」の管理協定調印式
市内外から約600人が参加し「第12回全国菜の花サミット in ふくしま」が開かれる
- ◎5月 奥地産産物と須賀川テクニカルリサーチガーデン立地協定・土地売買契約調印
市体育館内に設置していた「総合相談窓口」を閉鎖。行政機能を市役所仮設庁舎などに移す
新庁舎建設基本計画を策定
- ◎7月 第1回まちづくり市民懇談会が行われる
須賀川市長選挙で橋本克也氏が無投票で当選（2期目）
屋内子ども遊び場「すかがわキッズパーク+PLAY」が、労働福祉会館内にオープン
- ◎9月 市が所有する垂欧堂田善作品が国の重要文化財に指定される
- ◎10月 東循環バスと稲田エリア乗合タクシーの運行を開始
須賀川復興第1回菓子まつりが市体育館で開催
- ◎12月 須賀川市第7次総合計画「須賀川市まちづくりビジョン2013」を策定

ウルトラヒーローとともに須賀川の魅力を全国に発信

須賀川市とM78星雲「光の国」が 姉妹都市を提携



福島空港開港20周年で
ウルトラマン空港フェスタを開催
(3月20日)

SUKAGAWA 2013

平成25年5月5日、須賀川市はウルトラマンの故郷であるM78星雲「光の国」と姉妹都市の提携を行いました。

本市は特撮テレビ番組「ウルトラマン」を世に送り出した円谷プロダクションの創設者・円谷英二監督の出身地です。この年は円谷プロダクション創立50周年の記念の年に当たり、翌26年は本市が市制施行60周年を迎えるなど、双方にとって記念となる年が続きます。このことが契機となって姉妹都市提携の企画が実現しました。

姉妹都市提携に併せてインターネット上で「すかがわ市M78光の町」を開設。町長には宇宙警備隊大隊長のウルトラの父が就任するなど遊び



JR須賀川駅前広場のウルトラマンモニュメント (7月7日)

心も満載です。この「すかがわ市M78光の町」のサイトでは、7月19日から仮想都市への住民登録サービスがスタート。サイトで住民登録が完了すると、光の町の住所と住民番号が割り振られます。また割り振られた住民番号を須賀川観光協会や本市コミュニティ

イプラザなどに提示すると有料で住民票が発行されます。本市では、この姉妹都市提携をスタートに、ウルトラヒーローたちとの様々な取り組みにより、須賀川の魅力を全国に発信し、多くの人たちとの交流を図っています。須賀川の明るい未来の創造のため、光の国との姉妹都市提携の効果が期待が高まっています。



須賀川市×M78星雲「光の国」姉妹都市提携式 (5月5日)



©円谷プロ



市立博物館で特別展「特撮ヒーロー飛翔展—TSUBURAYA 50AGE—」を開催 (7月19日)



駅迎堂川ふれあいロードでボランティア植花事業 (6月15日)



きょうり天王祭 (7月14日)

神奈川県座間市と 友好交流都市協定を締結



座間市と友好交流都市協定を締結 (11月10日)

11月10日、本市は神奈川県座間市と友好交流都市協定を締結しました。

本市と座間市は、平成19年度に座間市内友好都市検討委員会が本市を友好都市候補地に選定したことを受け、交流を深めてきました。

特に東日本大震災以降、本市の復興の取り組みに当たり、座間市から災害復旧の技術職員の派遣をはじめ、物心両面にわたる支援を受け、平成23年11月には「災害時における相互応援協定」を締結。さらに、原発事故に伴う風評被害で大きな影響を受けている農作物や特産品の販売においても座間市の各種イベントなどで協力をいただいています。

袋田バイパスが開通へ

本市では、友好交流都市協定締結を契機に、座間市との交流をさらに深め、交流の輪を広げるとともに、交流人口の拡大を図っています。

平成17年の合併において、市街地と岩瀬地区を結ぶ重要な幹線道路と位置付けられた県道中野須賀川線は、袋田地区内に幅員が狭い区域があり通行に支障をきたしていました。これを解消するため、県の事業により平成22年度から進められていたバイパス(延長1.1km)工事が完了し、7月31日に開通しました。



主要地方道中野須賀川線袋田工区(袋田バイパス)が開通 (7月31日)



オリンピックデー・フェスタ in 須賀川 (11月30日)



赤十字すまいるばーくをオープン (9月2日)



第31回円谷メモリアルマラソン大会 (10月20日)

- Chronicle of 2013
- ◎11月 本市と神奈川県座間市が友好交流都市協定を締結
 - ◎10月 証明書コンビニ交付サービスの証明種類の拡大(税証明書・戸籍証明書)
 - ◎9月 ワイエスエレクトロニクス(株)と須賀川テクノカルチャーガーデン立地協定・土地売買契約調印
 - ◎8月 環境管理研究所と須賀川テクノカルチャーガーデン立地協定・リース契約調印
 - ◎7月 赤十字すまいるばーくをオープン 館ヶ岡の里橋が完成 被災した総合福祉センターの解体工事が完了
 - ◎6月 須賀川ふれあいロードでボランティア植花事業
 - ◎5月 JR須賀川駅前に須賀川市×M78星雲「光の国」姉妹都市提携記念モニュメントを新設 仮想都市「すかがわ市M78光の町」住民登録と住民票の発行を開始
 - ◎3月 主要地方道中野須賀川線袋田工区(袋田バイパス)が開通
 - ◎3月 須賀川牡丹園で、須賀川市×M78星雲「光の国」が姉妹都市提携式を開催
 - ◎3月 本市消防団が第7回東北水防技術競技大会で優秀賞を獲得
 - ◎3月 須賀川市で、東日本大震災の発生から2年、犠牲者の冥福を祈り、長沼地域で東日本大震災犠牲者追悼式 被災した市庁舎と第一小学校校舎の解体工事が完了
 - ◎3月 福島空港が開港20周年を迎え、記念式典とウルトラマン空港フェスタを開催
 - ◎1月 市復興まちづくり事業計画を策定
 - ◎1月 第一種市街地再開発事業基本協定締結調印式

須賀川市一大一年一表

HISTORY OF SUKAGAWA CITY

- 一九五四(昭和二九)年
- 3・31 1町4か村が合併し、須賀川市が誕生
- 4・1 消防団が発足
- 4・27 第1回市長選挙、岡部宗城氏当選
- 5・10 市制施行祝賀式典挙行
- 5・22 市歌発表演奏会開催
- 6・10 市章制定

- 一九五五(昭和三〇)年
- 2・1 消防署を設置
- 3・10 岩瀬郡仁井田村が須賀川市に合併
- 3・29 第1回市議会議員選挙。30人の新議員誕生
- 4・1 県立須賀川第二高等学校開校
- 5・15 釈迦堂川橋竣工式
- 10・1 嘱託員設置条例が施行される

- 一九五六(昭和三一)年
- 4・1 第三中学校が開校
- 4・8 岡部市長死去
- 5・10 澤田三郎氏市長初当選
- 5・21 服部けさ顕彰碑除幕式
- 6・1 地方財政再建促進特別措置法により財政再建団体になる
- 9・2 第二中学校新築落成
- 11・1 第二保育所開設

- 一九五七(昭和三二)年
- 1・12 財団法人須賀川牡丹園保勝会設立
- 4・1 第二小学校に愛護学級開設

- 4・19 鈴木貞夫氏市長初当選
- 9・30 東京オリンピックの聖火隊が本市を通過
- 10・2 市制施行10周年記念式典
- 10・21 巴谷幸吉選手が東京オリンピックのマラソン競技で銅メダル

- 一九六五(昭和四〇)年
- 3・31 稲田小学校新築落成
- 4・1 須賀川地方衛生処理組合の「し尿処理場」が操業を開始
- 若葉児童館開設
- 4・10 「須賀川広報」を「広報すかがわ」と改称
- 10・1 浜田、西袋支所の戸籍事務が本庁市民課扱いとなる

- 一九六六(昭和四一年)
- 4・1 和田幼稚園開設
- 4・15 第一小学校第一期工事完成、新学期より移転
- 6・28 台風4号により家屋浸水
- 9・24 台風26号により各地に水害が起きる
- 11・22 公立岩瀬病院新築落成
- 12・2 仁井田中学校新築落成式

- 一九六七(昭和四二年)
- 2・1 石川郡大東村が須賀川市に合併
- 3・27 市議会議員定数減条例により議員定数30人に
- 3・31 須賀川地方衛生処理組合の「ごみ焼却施設」完成
- 4・1 大東幼稚園開設
- 4・28 第4回市議会議員選挙
- 12・8 西川の太郎松が県天然記念物に指定される

- 一九六八(昭和四三年)
- 1・31 東山小学校新築落成
- 大森小学校新築落成
- 4・10 鈴木貞夫氏市長当選(2期目)
- 5・28 上人壇廃寺跡が国指定史跡となる

- 5・21 国道4号開通
- 6・19 農業委員会誕生
- 9・1 全域に国民健康保険事業を実施
- 12・10 愛護育成会が発足

- 一九五八(昭和三三年)
- 2・5 演武場竣工
- 3・18 首藤保之助氏、市に阿武隈考古館資料約5万点を寄贈
- 4・1 奨学資金制度実施
- 4・10 古戸大火で34世帯が被災
- 8・1 蝦夷穴古墳が県史跡に指定
- 9・17 青少年問題協議会設置

- 一九五九(昭和三四)年
- 3・17 古寺山の松並木が県の天然記念物に指定
- 3・29 第2回市議会議員選挙が大選挙区制で執行
- 3・31 羽鳥用水(浜田須賀川幹線用水)完成
- 4・1 第三小学校創立
- 10・1 五老山、南館、保土原館、妙見山の周辺を含め「翠ヶ丘公園」と改称

- 一九六〇(昭和三五)年
- 3・31 愛宕山(現上北町)に自由広場完成
- 財政再建団体から脱却
- 4・1 社会教育委員10人を委嘱
- 4・24 澤田三郎氏市長当選(2期目)
- 11・28 関下簡易水道が完成

- 9・1 市庁舎建設に着手
- 10・1 大東母子健康センターに助産所を併設
- 11・3 明治百年記念顕彰式典挙行

- 一九六九(昭和四四年)
- 2・17 救急車が配置され救急業務を開始
- 4・1 大東小学校開校
- 5・30 和田大仏及び横穴古墳群を市の史跡に指定
- 7・20 老人福祉センター新築落成
- 10・1 岩瀬牧場の玉蜀黍貯蔵所を市の有形文化財に指定
- 10・31 市庁舎新築落成
- 11・1 須賀川消防署庁舎落成移転

- 一九七〇(昭和四五)年
- 4・1 稲田仁井田小塩江大東地区に出張所設置
- 国民健康保険の乳児医療満1歳まで10割給付を実施
- 5・21 昭和天皇・香淳皇后両陛下、牡丹園・市役所などをご訪問
- 8・1 県下で初めての市立博物館オープン
- 10・15 市街化区域と市街化調整区域決定

- 一九七一(昭和四六年)
- 3・19 総合計画基本構想策定
- 3・20 須賀川駅に初の特急列車停車
- 4・25 第5回市議会議員選挙
- 7・14 公害対策審議会設置
- 9・1 台風23号により被害
- 10・18 第1回市長面談日実施
- 11・1 西川地区土地区画整理事業に着手

- 一九七二(昭和四七年)
- 1・9 札幌冬季オリンピックの聖火が本市を通過
- 3・22 第1回青年県外研修派遣事業を実施
- 3・27 中央公民館新築落成
- 4・1 阿武隈小学校創立

- 一九六一(昭和三六年)
- 4・7 子ども育成会連絡協議会が発足
- 4・25 第三小学校新築落成式
- 5・3 須賀川牡丹園内に牡丹会館落成
- 5・26 上人壇廃寺跡の発掘調査が始まる
- 6・27 集中豪雨による阿武隈川の増水で宇津峰大橋流失
- 12・22 第二中学校火災により5教室が焼失、3教室が半焼

- 一九六二(昭和三七)年
- 1・1 農村部で新暦の正月を採用
- 2・7 連合婦人消防隊が発足
- 8・9 市体育館落成式が挙行
- 8・20 中部地区土地区画整理事業に着手
- 11・23 上人壇廃寺跡の第3次発掘調査開始

- 一九六三(昭和三八)年
- 1・30 須賀川地方衛生処理組合設立
- 3・25 市議会議員定数が30人から26人に削減
- 4・9 県立須賀川女子高等学校が開校
- 4・30 第3回市議会議員選挙
- 5・10 小塩江小学校新校舎に移転
- 7・16 須賀川宇津峰線の道路開通記念碑除幕式
- 12・2 須賀川地区の町名・字名を変更

- 一九六四(昭和三九年)
- 2・28 仁井田簡易水道が完成
- 3・3 本市を含む常磐・郡山地区が新産業都市地区の指定を受ける

- 4・10 澤田三郎氏市長当選(通算3期目)
- 5・27 牡丹台庭球場完成
- 10・22 公立岩瀬病院創立百周年記念式典挙行

- 一九七三(昭和四八年)
- 3・9 勤労青少年体育センター新築落成
- 3・31 市図書館新築落成
- 4・1 第二小学校新築第一期工事完成
- 須賀川地方広域消防組合発足
- 7・27 県立養護学校開校
- 11・26 中部土地区画整理事業完了
- 東北縦貫自動車道須賀川インターチェンジ開通

- 一九七四(昭和四九年)
- 1・31 稲田公民館新築落成
- 4・1 うつみね保育園(ぼたん児童館、稲田幼稚園開設)
- 5・7 古寺山自奉養が県の重要無形民俗文化財に指定
- 11・13 第1回市政懇談会がスタート
- 11・20 市制施行20周年記念式典挙行

- 一九七五(昭和五〇)年
- 2・28 小塩江公民館新築落成
- 3・17 横山土地区画整理事業に着手
- 4・1 ぼたん保育園、うつみね児童館、小塩江幼稚園開設
- 4・10 第6回市議会議員選挙
- 7・10 牡丹台水泳場が完成
- 9・15 坂本鉄蔵氏が本市初の名誉市民に
- 9・29 財団法人坂本鉄蔵育英会設立

- 一九七六(昭和五一年)
- 2・7 太田貞喜コレクションが市に寄贈される
- 4・1 仁井田公民館新築落成
- 仁井田幼稚園開設
- 4・11 澤田三郎氏市長当選(通算4期目)
- 5・24 国指定史跡上人壇廃寺跡の第4次発掘調査
- 6・6 第1回市民一日環境美化運動実施

- 一九七七（昭和五二）年
- 1・12 公共下水道工事に着手
- 3・30 下江持橋渡橋式
- 3・31 西袋公民館新築落成
- 4・26 消防庁舎が新築移転し、業務を開始
- 10・6 優良都市として、地方自治30周年記念式典において自治大臣賞を受賞
- 11・1 福祉事務所と教育委員会事務局が旧消防庁舎跡に移転
- 11・3 休日夜間急病診療所開設

- 一九七八（昭和五三）年
- 3・31 墓地公園に302区画の墓域が完成
- 7・2 杜丹台運動公園完成
- 7・2 おはよう青空市場開設
- 8・20 第1回釈迦堂川花火大会が開催される
- 9・28 消費生活モニター制度を設置し、初のモニターを委嘱
- 12・1 都市総合交通規制を実施

- 一九七九（昭和五四）年
- 3・6 西川地内で温泉が湧出
- 4・22 第7回市議会議員選挙
- 6・1 東公民館新築落成
- 7・1 勤労青少年ホーム、武道館オープン
- 7・21 杜丹台野球場のバックスクリーンとスコアボード完成
- 9・23 杜丹台庭球場に夜間照明設置
- 10・13 西川地内に市民温泉開設

- 一九八〇（昭和五五）年
- 1・14 西川第二土地区画整理事業に着手
- 4・13 澤田三郎氏市長当選（通算5期目）
- 5・18 須賀川商店連合会主催の第1回ミス杜丹コンテスト
- 10・1 第13回国勢調査。本市人口5万7110人

- 一九八九（平成元）年
- 2・3 本市の人口が6万人台に
- 4・1 仁井田小学校新築移転
- 4・8 芭蕉記念館、産業会館オープン
- 4・8 「清陵通り」開通式
- 5・13 第1回すががわ国際短編映画祭開催
- 10・18 杜丹の花いっぱい作戦スタート、杜丹の記念植樹
- 11・1 財団法人須賀川市都市振興公社設立
- 11・11 松明太鼓初演

- 一九九〇（平成二）年
- 1・1 新時代の「空」をイメージしたスカイブルーの市旗を制定
- 3・1 印鑑登録証明事務を電算化移行
- 3・31 大森小学校新築移転
- 4・1 ふれあいセンターオープン
- 4・2 須賀川地方保健環境組合の「新ごみ処理施設」操業開始

- 一九九一（平成三）年
- 3・14 新総合計画2000を策定
- 4・1 中央公民館の新館オープン
- 4 歳未満児の医療費無料化
- 4 第10回市議会議員選挙
- 8・1 第三中学校新築落成
- 9・30 福島空港ターミナルビル着工
- 10・5 JR須賀川駅の新駅舎開業

- 一九九二（平成四）年
- 2・14 稲田小学校校舎大規模改修工事完成移転
- 3・25 大町浜尾線の旭橋開通
- 4・1 コミュニティプラザ業務開始
- 4・12 高木博氏市長当選（3期目）
- 7・27 下宿土地区画整理事業に着手
- 10・1 公共下水道一部供用開始
- 11・16 ティーサーピスセンターオープン

- 11・10 歴史民俗資料館開設、開館記念として亜欧堂田善展を開催

- 一九八一（昭和五六）年
- 3・20 第2次総合計画基本構想策定
- 5・23 文化センター新築落成。市民憲章、市の花「ぼたん」、市の木「あかまつ」を制定
- 7・6 須賀川市と玉川村が合同で空港設置促進協議会を設置
- 8・1 老人福祉センター新築落成
- 12・12 福島空港「須賀川東」実現総決起大会開催

- 一九八二（昭和五七）年
- 2・1 福島空港建設地が「須賀川東」に決定
- 2・24 青津保寿氏刀装具628点を市に寄贈
- 4・1 柏城小学校新築開校
- 4 空港建設対策本部を設置
- 4 労働福祉会館オープン
- 4・2 シルバー人材センターが発足

- 一九八三（昭和五八）年
- 3・19 市議会議員定数減少条例により議員定数26人に
- 4・1 共同福祉施設新築開館
- 4・24 第8回市議会議員選挙
- 6・14 須賀川駅前土地区画整理事業に着手
- 10・23 第1回円谷マラソン大会開催
- 11・20 市民参加によるペーパークレーンの「第九」を初演

- 一九八四（昭和五九）年
- 3・1 市制施行30周年記念式典挙行
- 4・15 高木博氏市長初当選
- 5・29 横山土地区画整理事業完了
- 7・7 第一中学校新築落成
- 7・17 山寺土地区画整理事業に着手
- 10・21 釈迦堂川畔で市制施行30周年記念の市民植樹祭

- 一九九三（平成五）年
- 3・19 空港東側アクセス道路の開通式
- 3・20 福島空港が札幌・名古屋・大阪の3路線で開港
- 5・15 福島空港開港記念「桜枝歌謡舞伎須賀川公演」開催
- 6・14 福島空港国際空港化促進協議会設立
- 8・1 中国洛陽市と友好都市締結
- 8・20 西袋第二小学校新築移転

- 一九九四（平成六）年
- 2・1 駅前自転車等駐車場オープン
- 3・28 市の鳥「かわせみ」、市のマスコットキャラクタ「ポーター」を発表
- 3・28 市制施行40周年記念式典挙行
- 4・1 須賀川アリーナオープン
- 5・1 花と緑のまちづくり基金制度創設
- 5 市民スポーツ広場開設

- 一九九五（平成七）年
- 3・29 県立清陵情報高校野球部が選抜高校野球大会の東北代表として初出場
- 4・1 市民スポーツ会館オープン
- 4・23 第11回市議会議員選挙
- 8・18 2001年開催の福島県博覧会の会場地にテニニカルリサーチガーデン計画が決定
- 10・15 19 ふくしま国体で銃剣道競技大会と卓球競技大会が開催される

- 一九九六（平成八）年
- 2・6 滑川地区の北部都市整備事業スタート
- 3・1 JAすかがわ岩瀬が発足
- 4・7 高木博氏市長無投票当選（4期目）
- 6・29 高木博市長死去
- 7・31 青少年親善訪中団が中国洛陽市を訪問
- 8・11 相楽新平氏市長初当選
- 11・7 行財政改革大綱を策定

- 11・16 西川土地区画整理事業完了

- 一九八五（昭和六〇）年
- 4・12 須賀川観光協会主催のミス杜丹コンテスト
- 4・27 市役所に「市民の庭」が完成、市民憲章碑除幕
- 5・17 市内の景勝地20か所に設置した俳句ポストの第1回選句会
- 8・28 福島空港が国の第5次空港整備5か年計画に組み入れ決定
- 9・11 澤田悌氏が本市2人目の名誉市民となる

- 一九八六（昭和六一）年
- 3・10 稲田中学校新築落成
- 3・20 「花と緑の臨空都市すかがわ」をまちづくりの目標とした新総合計画を策定
- 4・1 市保健センター開設
- 6・11 第二中学校新築落成
- 8・5 豪雨による水害で大被害（本市始まって以来の「災害救助法」適用）

- 一九八七（昭和六二）年
- 2・10 西袋中学校新築落成
- 4・1 「明るい長寿社会を築く市民基金」制度創設
- 4・14 杜丹園に日本庭園と杜丹姫像が完成
- 4・26 第9回市議会議員選挙
- 8・21 西川第二土地区画整理事業完了
- 10・18 上水道創設50周年記念式典
- 12 諏訪町土地区画整理事業に着手

- 一九八八（昭和六三）年
- 4・1 大東公民館新築落成
- 4 一般家庭粗ごみを収集開始
- 4・10 高木博氏市長無投票当選（2期目）
- 9・27 天候不順で農業災害対策本部を設置
- 10・7 農業振興推進会議設置

- 一九九七（平成九）年
- 3・27 第二保育所新築移転
- 4・1 駅前児童クラブ館オープン
- 6・25 小塩江中学校新校舎完成
- 7・1 本市の人口が6万5000人台に
- 7・24 市民懇談会スタート
- 9・4 高齢者市政トキキング事業スタート
- 10・16 空港東側アクセス道全線開通

- 一九九八（平成一〇）年
- 4・1 市民提案制度スタート
- 仁井田児童クラブ館開館
- 介護保険準備室と「ふくしま未来博推進室」設置
- 4・20 宮の杜ニュータウン落成式、分譲開始
- 5・3 ふれあい花壇支援事業スタート
- 8・27 未明から豪雨災害発生
- 10・1 情報公開制度スタート

- 一九九九（平成一一）年
- 2・4 すかがわ男女共同参画プラン21を策定
- 2・26 市ホームページ開設
- 3・29 市シンボルマーク「花のエンゼル」発表
- 4 第12回市議会議員選挙
- 6 福島空港に初の国際定期路線就航
- 7 7 うつくしま未来博実行委員会を設立
- 10・1 「市民交流サロンよりあい」オープン

- 二〇〇〇（平成一二）年
- 1・1 環境基本条例を施行
- 7・9 相楽新平氏市長無投票当選（2期目）
- 7・10 仁井田中学校新校舎完成
- 11・6 うつくしま未来博ボランティアセンターを設立
- 11・30 ふくしま森の科学体験センター完成
- 12・21 総合計画「しあわせアップ21」を策定

二〇〇一（平成一三）年

- 1・1 市長Eメール開通
- 4・1 稲田児童クラブ館開館
- 乳幼児医療費助成制度の対象年齢を就学前まで拡大

- 6・5 未来博進入道路の市道2-24号線開通
- 6・27 未来大橋開通
- 7・7～9・30 「うつくしま未来博」が開催される
- 9・16 須賀川橋竣工式
- 11・1 ふくしま森の科学体験センターオープン
- 児童福祉計画「エンゼルプラン」策定

二〇〇二（平成一四）年

- 1・1 ファミリーサポートセンター事業をスタート
- 3・4 保健計画「健康アップ21」を策定
- 3・29 上人壇麩寺跡出土品が一括県の重要文化財に指定
- 8・30 小塩江小学校新校舎完成
- 10・30 地域情報化計画策定

二〇〇三（平成一五）年

- 1・1 男女共同参画推進条例施行
- 1・15 牡丹大使10人を委嘱
- 4・1 小塩江児童クラブ館開館
- 4・27 第13回市議会議員選挙
- 11・21 西部2号雨水幹線分水路工事竣工

二〇〇四（平成一六）年

- 3・26 市制50周年記念式典挙行
- 5・28 下宿土地区画整理事業完了
- 7・1 あきない広場アトリウム「まちなかプラザ」の供用を開始
- 7・11 相楽新平氏無投票当選（3期目）
- 8・26 須賀川市・長沼町合併協定調印式
- 10・11 須賀川産コシヒカリ「ぼたん姫」発表会
- 10・19 須賀川市・岩瀬村合併協定調印式

二〇〇五（平成一七）年

- 2・16 市役所がISO14001の認証を取得
- 4・1 須賀川市・長沼町、岩瀬村が合併
- 長沼支所・岩瀬支所開所式

二〇〇六（平成一八）年

- 10・14 須賀川アリーナに円谷幸吉メモリアルホールオープン
- 11・19 第18回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）で須賀川市チームが悲願の初優勝

二〇〇七（平成一九）年

- 4・1 総合福祉センターオープン
- 4・3 東部環状線が全線開通
- 4・9 白江こども園開園
- 4・22 合併後初の市議会議員選挙

二〇〇八（平成二〇）年

- 5・10・11 すががわ国際短編映画祭第20回記念映像コンクールを開催
- 7・20 橋本克也氏市長初当選
- 8・7 須賀川牡丹園保勝会が日本観光協会花の観光地づくり奨励賞を受賞

二〇〇九（平成二一）年

- 2・2 乗合タクシー運行開始
- 2・17 定額給付金対策室を設置
- 7・29 須賀川医師会との共同開催による「地域医療を語る会」が西袋公民館から始まる
- 10・1 「こども医療費助成制度」を開始

二〇一〇（平成二二）年

- 4・1 市が組織機構改革を実施
- 7・10 「結の辻」が本町に開所
- 10・1 大森小児童クラブ開館により全小学校学区の児童クラブ設置が完了

二〇一一（平成二三）年

- 3・11 午後2時46分、東日本大震災が発生
- 3・25 諏訪町土地区画整理事業完了
- 5・9 循環バスの運行開始
- 9・4 第15回市議会議員選挙
- 9・21 台風15号の影響で釈迦堂川、阿武隈川とも過去最高の水位を記録

二〇一二（平成二四）年

- 3・11 東日本大震災犠牲者追悼式を挙行
- 4・28・29 第12回全国菜の花サミットinふくしまが開催
- 7・22 橋本克也氏市長無投票当選（2期目）
- 7・27 屋内こども遊び場「すががわキッズパーク」が労働福祉会館内にオープン
- 9・6 亜欧堂田善の銅版画作品など2件が国の重要文化財に指定
- 12・26 第7次総合計画「須賀川市まちづくりビジョン2013」を策定

二〇一三（平成二五）年

- 3・25 被災した市庁舎と第一小学校の解体工事完了
- 5・5 本市とM78星雲「光の国」が姉妹都市提携
- 5・26 消防団が第7回東北水防技術競技大会で優秀賞を獲得
- 7・7 JR須賀川駅前に市×M78星雲「光の国」姉妹都市提携記念モニメントを新設
- 7・19 仮想都市「すががわ市M78光の町」住民登録と住民票発行開始
- 7・31 主要地方道中野須賀川線袋田工区（袋田バイパス）が開通
- 8・28 第1回子ども・子育て会議を開催
- 9・8 館ヶ岡の里橋が完成
- 9・30 被災した総合福祉センターの解体工事完了
- 11・10 本市と神奈川県市が友好交流都市協定を締結



第3部

クローズアップ須賀川

古きよき時代を慕う心、

そして吹き抜ける新しい風を感じる心。

二つの心を紡ぎながら誉れ高き

文化を今へと受け継ぐ、須賀川、時の紡ぎ唄。

規模も美しさも世界最大級

「国一指一定一名一勝」

須賀川の牡丹園

須 賀川を代表する花「牡丹」。百花の王と呼ばれ繁栄のシンボルともいわれる牡丹が、春になると290種、7000株も咲き誇り、訪れる人を魅了するのが、国指定名勝「須賀川の牡丹園」です。

そもそも牡丹園は、約250年前の明和3年(1766)、須賀川で薬種商を営んでいた伊藤祐倫が、薬用として摂津国山本村(現在の兵庫県宝塚市)から、苗木を持ち帰り栽培したのが始まりと言われています。その後受け継いだ柳沼家が種類、株数を増やし、薬用から観賞用へと丹精込めて育てました。昭和7年に国の名勝に指定され、ほぼ現在の形と

なりました。昭和32年(1957)に「財団法人須賀川牡丹園保勝会」(平成25年に「公益財団法人」)となる。が設立され、肥培管理や牡丹園の維持管理に務めています。

昭和60年に建立されたもので、牡丹姫像は中国洛陽市との牡丹を架け橋とする交流のあかしとして、洛陽市王城公園の牡丹仙子像を模しています。平成23年(2011)3月の東日本大震災では、園内施設に大きな被害がありました。春になり例年と変わらぬ見事な花を咲かせた牡丹は、訪れた多くの観光客や被災された人々の心の癒しとなりました。



須賀川の牡丹園は国指定の名勝



園内には約290種、7000株の牡丹が咲き誇る

広大な日本庭園に世界最大級の牡丹園 艶やかに咲き誇る牡丹たち

●須賀川牡丹園の歴史

- 明和3年(1766) 薬種商伊藤祐倫が薬用として摂津国山本村(現在の兵庫県宝塚市)から牡丹の苗木を持ち帰り栽培を始める
明治初期、柳沼家が受け継ぎ、薬用目的から観賞用へ
- 大正12年(1923) 牡丹園入口に那須雲照寺の釈戒光(1871~1928)の筆による「牡丹園」の標石を建立
- 昭和7年(1932) 国の名勝に指定される
- 昭和11年(1936) 作家・吉川英治が牡丹園を訪れる
牡丹園で牡丹の枯れ木を焚く牡丹焚火を目にした吉川英治は、小説「宮本武蔵」の一場面に引用したと言われる
- 昭和14年(1939) 牡丹園に一生を捧げ、俳人としても活躍した柳沼源太郎死去(64歳)
- 昭和32年(1957) 牡丹園の維持管理団体として財団法人須賀川牡丹園保勝会が設立される
- 昭和45年(1970) 昭和天皇、香淳皇后両陛下が来園
- 昭和53年(1978) 牡丹焚火が俳句歳時記の季語として登録される
- 平成5年(1993) 樹齢約150年の古木3本などが230年ぶりに宝塚市に里帰り
- 平成13年(2001) 牡丹焚火が環境省の「全国かおり風景百選」に選ばれる
- 平成17年(2005) 花伸亭が新築オープン
- 平成22年(2010) 園内で生まれた新品種牡丹に公募により「須賀川の微笑」と名付ける
- 平成23年(2011) 東日本大震災により園内の施設が被害を受ける
牡丹会館が新築オープン(震災により1か月遅れて5月にオープン)
- 平成24年(2012) 園内で生まれた新品種牡丹に「希望の光」と名付ける



柳沼源太郎 (1875~1939)



大正時代の牡丹園



昭和初期の入口風景



昭和11年、吉川英治が牡丹園を訪問



中国洛陽市との牡丹友好と交流のあかし「牡丹姫像」



牡丹焚火

牡丹焚火は、毎年11月第3土曜日に須賀川牡丹園で行われる牡丹の古木を供養する行事です。この焚火を囲んでの句会が昭和53年から開かれ、平成13年には環境省の「全国かおり風景百選」にも認定されています。牡丹焚火の始まりは大正時代に遡ります。当時の園主・柳沼源太郎は牡丹の枯木を供養するため焚火をしていました。源太郎は趣味で俳句を詠んでいたこともあり、当初は親しい俳人を招いて行っていた焚火でしたが、後に多くの俳人や歌人・文人が訪れるようになりました。昭和53年には俳句歳時記の季語として「牡丹焚火」が登録され、牡丹焚火は須賀川の晩秋の風物詩として定着しました。

昭和天皇御製碑



県内最大級を誇る花火が夏の夜空を彩る

釈迦堂川花火大会

有 名花火師による尺玉の競演をはじめ、合唱と花火のコラボレーションによる音楽創作花火、尺五寸玉、ナイヤガラなど約1万発もの花火が華麗に夜空を彩る「須賀川市釈迦堂川花火大会」。この花火大会は、昭和53年（1978）に始まりまし。

元商工会議所や地域の団体を中心に実行委員会が組織され、平成17年（2005）、須賀川市、長沼町、岩瀬村の3市町村の合併を契機に、地元花火工も大会に加わり、より演出に趣向を凝らした芸術性の高い花火大会へと成長。今では30万人を超える来場者でにぎわう東北有数の花火大会となりました。

は平成14年。平成22年には、個人の思いを伝えるメモリアル花火やFMラジオでの実況生中継が始まり、花火大会を支えるサポーターの募集もこの年に開始されました。

に盛大に開催。市内中学校5校の合唱部員の歌声と花火とがコラボレーションする音楽創作花火はこの年に始まったものです。

平成25年、35回目を迎えた「釈迦堂川花火大会」は、次代を担う子どもたちに夢や希望、感動を与え、元氣な須賀川を全国にアピールする夏の風物詩です。



約1万発の花火が夏の夜を彩る

打ち上げ会場となる市民スポーツ広場

地産地消の花火

「須賀川市釈迦堂川花火大会」に欠かすことのできない存在が、明治6年（1873）創業の地元須賀川の老舗・糸井火工です。社長の糸井一郎氏は県の技能者表彰を受賞した名工です。糸井火工が平成17年（2005）から須賀川の花火大会の演出を手掛けるようになると、花火大会もコンピュータを駆使した音楽と花火が融合した芸術性の高いものへと進化を遂げました。その一方で、花火そのものの素晴らしさを須賀川市民に見せたいとの思いから全国各地の名工の花火も厳選して打ち上げています。

釈迦堂川花火大会は、30万人を超える来場者でにぎわう東北有数の花火大会



震災以降始まった花火と音楽のコラボレーション（音楽創作花火）



長沼まつり

大 小のねぶたやねぶた約10基が繰り出し、夜の街を幻想的に照らし出す初秋の風物詩「長沼まつり」。参加団体の手作りねぶたを囲み、威勢よく跳びはねるハネトは圧巻。よさこい踊りや長沼音頭の踊り流しと子どもみこしが、まつりを一層盛り上げます。

60年(1985)に遡ります。当時、1基のねぶたを譲り受けたのをきっかけに、町青年団体連絡協議会が結成され、子どもみこしと踊りの愛好団体など19団体が参加して第1回石背長沼まつりが開催。翌年には、青森ねぶたを視察研修し、試行錯誤のうえ、長沼産第一号ねぶた「雷神」が完成。また「スーパーマリオ」ねぶたも制作され大

いに盛り上がりしました。第3回のまつりでは、それぞれで不確定だった開催日が毎年9月の第2土曜日に定められ、翌年は、ねぶた・ねぶたが6基、参加団体も23団体となり、まつりの規模も次第に大きくなっていきました。

平成19年(2007)には、手づくりのまつりを通して地域活性化と青少年の健全育成への取り組みをたたえる第18回みんゆう県民大賞ふるさと賞を受賞しました。

1基のねぶたと約千人の観衆で始まった長沼まつり。今では3万人を超える見物客でにぎわう大規模なイベントとして人気を博しています。



威勢よく跳びはねるハネトは圧巻



ねぶたやねぶたが街を幻想的に照らし出す

「らっせーらー、らっせーらー」の掛け声高らかに 幻想的に輝くねぶたとハネトの供宴

◎長沼ねぶたの制作工程

<p>1 骨組み</p>	<p>5 ロウ書き</p>
<p>2 電気配線</p>	<p>6 色付け(彩色)</p>
<p>3 紙貼り</p>	<p>7 台上げ</p>
<p>4 書き割り</p>	

- 角材で約4m四方の土台を作り、針金で組んだ顔、手、足などのパーツを土台に固定し胴体部分をつなぎます。
- 照明用の電気配線を行います。20Wから40Wの電球約120個が取り付けられます。
- 奉書紙という青森和紙を、針金の1マスごとに形を合わせて切り抜き、白玉粉で貼っていきます。
- 墨を使って書き割りを行います。顔や手足、衿、帯、着物の柄などを書き分けていきます。
- 明かりの通りを良くして色のにじみを防ぐため、模様や書き割り周辺などをロウ書きしていきます。
- 染料を使って色付けしていきます。強弱を付けたい部分は薄めた染料でボカシを付けていきます。
- 完成したねぶたの台上げを行います。台車内部の発電機3台をゴムチューブで固定して完成です。



よさこい踊りや長沼音頭が祭りを盛り上げる



平成15年「ほたる&水とみどりのふるさとまつり」として始まった

いわせ悠久まつり

平

成15年「ほたる&水とみどりのふるさとまつり」として始まった「いわせ悠久まつり」。平成21年に、現在の名称に変わり、開催時期も夏から秋に。平成25年（2013）のオープニングセレモニーでは、岩瀬商工会女性部が中心となって作成した折り鶴が披露されました。折り鶴で描かれた「結」の字には、昔な

がらの結の精神で東日本大震災からの復旧・復興に取り組んでいくという想いが込められています。

岩瀬地域は、須賀川産ブランド米の生産推進と販売促進に取り組んでいる地域で、岩瀬清流米は減農薬・低化学肥料による環境に優しい特別栽培米として人気のブランドです。この地域で収穫された米

を使った数々のイベントが繰り広げられるのも「いわせ悠久まつり」の特色です。

中でも祭りで好評を博しているのが岩瀬清流米早食い大会。子どもの部で350g、大人の部で1kgの岩瀬清流米を平らげるタイムレースに観衆はひととき盛り上がりを見せます。また、米ロールケーキ早食い大会も人気の競技の一つ

です。その他、ちから自慢俵投げ大会や白江躍進太鼓、よさこい演舞、豊年踊りなど地区民あがての催しが目白押しです。

祭りのクライマックスには、東日本大震災からの復興を願い、いわせ復興花火が打ち上げられ、国内最大級のスターマインと唐傘行燈花火が岩瀬地域の夜空を鮮やかに彩ります。



「唐傘行燈花火」は、閉じた傘が開くという日本で唯一の仕掛け花火です



平成23年8月28日開催のまつりでは、神奈川県座間市の皆さんと復興への願いを込めた大凧を上げました



踊りや合奏などのイベントが盛りだくさん

健康づくり、福祉ケア、市民交流の複合施設。 笑顔と笑顔がいきかう交流拠点

◎ZOOM IN いわせ悠久の里



「いわせ悠久の里」は自然環境を生かした健康づくり、福祉ケア、市民交流のための総合複合施設です。いわせグリーン球場や運動広場、トレーニングセンターのほか、いわせ保健センターやいわせ老人福祉センターでは温泉を利用した健康づくりが進められています。



1 いわせ保健センター／健康相談室のほかに、軽トレーニング室、温水プール、温泉などを備えています。温泉は源泉掛け流し（源泉名：石背温泉）。内風呂・サウナ（ドライ、ミスト）・露天風呂（岩風呂・石風呂、ひのき風呂）があります。

2 いわせグリーン球場／本塁・センター間120m、両翼・本塁間100mの本格的な球場。スタンド席670人の収容。ナイター照明設備を完備。

3 いわせ運動公園／サッカー1面、ソフトボール2面

4 いわせ地域トレーニングセンター／バスケット1面、バレーボール1面、バドミントン2面

5 マレットゴルフ場／保健センター南側の遊歩道にある45ホールのマレットゴルフコース。この遊歩道は、ふくしまの遊歩道50選にも選ばれています。



松明あかし

4 20年以上の歴史を誇る「松明あかし」。立ち並ぶ巨大松明から燃え盛る火柱が天を焦がす須賀川の勇壮な祭りです。毎年11月の第2土曜日に開催されるこの祭りの歴史は戦国時代に遡ります。

天正17年(1589) 10月、伊達政宗は会津黒川城(現在の鶴ヶ城)の城主芦名氏を滅

ぼし、その余勢をかって須賀川城攻撃を謀りました。それを知った二階堂家の家臣や領民たちが夜、手に手に松明をともし集結。決死の覚悟で須賀川城を守ることを決議し城主大乗院に進言。10月26日、釈迦堂川を挟んで合戦の火ぶたが切られます。しかし重臣の謀反により須賀川城は火災に包まれ落城。家臣の大半は城

と運命を共にし悲壮な最期を遂げました。「松明あかし」は、この戦で討ち死にした霊を弔うために始められたと伝えられています。

祭り当日は、若衆が長さ10メートル、重さ3トンもの大松明を担ぎ街中を練り歩き、その後、姫松明が続く、街は祭り一色となります。

二階堂神社で奉受された御

神火も市内を一巡し、五老山へ。勇壮な松明太鼓のどろきとともに、丘の上に立てられた大松明や林立する30数本の本松明に次々に点火され、祭りは最高潮に達します。

「松明あかし」は平成15年にふるさとイベント大賞優秀賞を受賞。市民自ら祭りを運営する文字通り市民総ぐるみのイベントです。



大松明は街中を練り歩き五老山へ



大松明や本松明に点火されると祭りは最高潮に達する

420余年前を偲びながら開催される 晩秋の夜空を焦がす松明あかし

◎TOPICS 松明あかし

1989(平成元年)

「松明太鼓」初披露



松明あかしが400年の歴史を迎えるこの年、松明太鼓がふるさと創生事業の1つとして市民の前で初めて披露されました。それ以降、松明太鼓は松明あかしを盛り上げるなくてはならない存在となり、炎と音の供宴は、見物に訪れる人々の心を魅了しています。

2003(平成15年)

市民劇「松明あかし」上演



「すかがわ手作り市民劇」第2弾として「松明あかし」を上演。スタッフやキャストに中学生や高校生も加わり、若い世代が須賀川の伝統を生き生きと描きました。また、この年、松明あかしが第7回ふるさとイベント大賞優秀賞を受賞しました。

2009(平成21年)

本松明製作に一般も参加



この年、一般の方にも松明あかしに参加していただくため松明製作体験コーナーを設置しました。

2011(平成23年)

松明の材料が全国から



放射能汚染による安全・安心を考慮して、松明に使用するカヤや竹などの材料提供を全国に呼びかけ、23市町村から材料の提供を受け無事に歴史をつなぐことができました。松明あかしが結んだ縁を機に、全国各地と交流が生まれています。

2011(平成23年)

復旧・復興を願う「ろうそくあかし」



「ろうそくあかし」は東日本大震災により甚大な被害を受けた須賀川の復旧・復興を祈念するために生まれた新しい行事です。来場者が震災復興への思いを和紙に綴り、「七宝文様」「三光紋」などの日本の伝統文様を約2,000個の和紙キャンドルなどで表現します。



暮谷沢の碑

文安元年(1444)、二階堂為氏と須賀川を治めていた治部大輔が対立していた頃のことです。大輔の娘・三千代姫が為氏に嫁ぐことで和睦したかに見えた両氏でしたが対立は続き、為氏は妻三千代姫と離縁。三千代姫が父のもとへ戻る途上の暮谷沢の地で戦いが起こります。両氏が退散し、その場に残された三千代姫は「二夫にまみえず」という信念から、15歳の若さで自害、乳母や御付きも殉じました。「人間わは岩間の下のみだ橋 流さでいとま 暮谷沢とは」。これは三千代姫がこの時に詠んだ辞世の句です。暮谷沢は栗谷沢へとその名を変え、三千代姫の霊を弔う暮谷沢の碑や三千代姫堂が静かに佇んでいます。

平成15年にふるさとイベント大賞を受賞した松明あかしは市民総ぐるみのイベント



偉人探訪

須賀川人物辞典

二階堂氏の城下町として、また奥州街道の宿場町として栄えた須賀川。悠久の昔から続く時代という舞台の上で、須賀川の次代を築いてきた須賀川の偉人たち。その大なる知恵と勇気、そして熱い想いは、今も脈々とこの地に息づいています。

重 欧堂田善

[aoudo denzen]



あおうどう でんぜん
1748～1822 / 江戸後期の画家、銅版画家。代表作に「新訂万国全図」「医範提綱内象銅版画」などがある。

重欧堂田善(本名・永田善吉)は、寛延元年(1748)、諏訪町の染め物業・永田惣四郎の次男として生まれました。三重県の寂照寺の僧侶に教えを受けた田善は、須賀川本町の庄屋の依頼で風景図「江戸芝愛宕山図」を屏風に描きました。寛政6年(1794)、領内巡視の際、その庄屋に立ち寄った白河城主・松平定信は屏風に目を留め、田善の才能に感銘。画家の道を奨励しました。寛政10年(1798)、定信公は日本版世界地図製作のため、田善に銅版画技法の習得を命じました。12年後の文化7年(1810)、我が国初の銅版画による世界大地図「新訂万国全図」を完成させ、また文化5年(1808)には52図からなる日本最初の精密な解剖図「医範提綱内象銅版画」を製作。当時の西洋医学を日本に伝える医学書として、明治時代に至るまで何度も増刷を重ねました。



国指定重要文化財「銅版画東都名所図」中の「東都名所全図」

定信公の隠居を機に、須賀川に戻り日本画を描きながら晩年は、文政5年(1822)、75歳でその生涯の幕を下ろしました。

小 林久敬

[kobayashi hisataka]



こばやし ひさたか
1821～1892 / 安積疏水の実現に尽くし、須賀川市周辺の水資源の確保と農業発展に大きく貢献。

安積疏水の実現の功労者である小林久敬は、文政4年(1821)、須賀川に生まれました。猪苗代湖と岩瀬地方が一望できる舟木峠近くにトンネルを掘れば、経済的にも時間的にも最良の策であると考えた久敬は、「舟木峠案」実現のため、全財産を注ぎ込んで水路づくりに取り組みしました。ところが、明治12年(1879)、安積疏水工事に着手した政府と県は政策を変更し、沼上峠への工事を進めていきます。久敬は工事の現場で様々な進言を行います。久敬は入れてもらえませんでした。しかし工事はオランダからの招へい技師・ファンデルンの指揮の下、順調に進められ、わずか4年で安積平野へと通水したのです。形はどうあれ、通水式で水門が開かれ、湖水が安積平野へ流れると、久敬のかねてからの悲願はついにはかなえられました。その後、疎水実



顕彰碑と辞世の句碑(諏訪町 神炊館神社参道脇) 句碑には「あつたのし田ごとにつる月のかげ」と刻まれ、その情熱は今も語り継がれている。

2年後、疎水実現への情熱と見識が、ついに政府に認められ、民間功労者として明治天皇から銀杯を賜りました。明治25年(1892)、71歳の生涯を終えました。

柳 沼源太郎

[yaginuma gentaro]



やぎぬま げんたろう
1875～1939 / 牡丹園の保存管理に一生を捧げ、全国唯一の国指定名勝「須賀川の牡丹園」の基礎を築く。

柳沼源太郎は、須賀川の牡丹園を語るうえで欠かすことのできない人物です。

そもそも牡丹園は明和3年(1766)、須賀川の薬種商・伊藤祐倫が、牡丹の苗を現在の兵庫県宝塚市から買い求め、薬用に栽培したのが始まりと言われています。明治には、牡丹園は柳沼家へ譲渡され薬用目的から鑑賞用へと切り替わりました。須賀川町の2代目収入役柳沼新兵衛の長男として生まれた源太郎は、父亡き後、牡丹園経営を引き継ぎました。15歳で上京、牡丹で専門的に学び、帰郷後は牡丹栽培一筋に励みました。また、源太郎は俳人としても才能を発揮。大正時代には原石鼎の門に入り「破籠子」の名で数々の名句を残しています。昭和7年(1932)、牡丹園は国の名勝に指定されました。しかし、不況が続く牡丹園も経営難となりましたが、一族で手を取り合い、この難局を切り抜けました。牡丹園に二世を捧げ、源太郎は牡丹の美しさを後世に引き継ぎ、昭和14年(1939)、64歳でその生涯を終りました。



国指定名勝 須賀川の牡丹園 園内には290種、7000株の牡丹が咲き誇り、多くの観光客を迎える

服部ケサ

[hatori kesa]



はっとり けさ
1884～1924 / ライ病(ハンセン病)患者専門の「鈴蘭病院」を開業するなど、ライ病医療に一生を捧げ、大きく貢献。

40歳という短い人生を、ライ病(ハンセン病)患者への治療に捧げた服部ケサは、ここの須賀川に生まれました。

文学を志し上京したケサは、与謝野鉄幹らが主宰する「明星」に投稿するなど、早熟な文才で活躍。しかし、家族の相次ぐ疾患と看護がケサを医学の道へ導きました。

明治38年(1905)、21歳で現在の東京女子医大に入学。大正2年、最難関の医師試験に合格しました。その後、勤めた病院で多くのライ病患者と出会い、ライ病治療に一生を捧げることを決意したのです。

大正6年(1917)、ケサは草津聖バルナバ病院に赴任。ライ病患者のみならず地域医療を支える医師として活躍しました。大正13年(1924)、草津栗生村に日本人として初のライ病専門「鈴蘭病院」を開院します。ところが、開院からわずか23日目に



公立岩瀬病院(北町)駐車場内に建つ服部ケサの顕彰碑 レリーフと「頌徳」の二文字が刻まれている

心臓発作で帰らぬ人となりました。鈴蘭病院は昭和6年(1931)に国立療養所・栗生楽園となり、ライ病医療に大きく貢献しています。

円谷英二

[tsuburaya eiji]



つぶらや えいじ
1901～1970 / 「ウルトラマンシリーズ」や「ゴジラ」など、日本映画界の特撮映像の発展に大きく貢献。

「ウルトラマン」シリーズや「ゴジラ」などの怪獣シリーズを生み出し、特撮技術を日本映画界に普及させた円谷英二監督。彼は、明治34年(1901)、須賀川中町の由緒あるこうじ屋に生まれました。本名は英一。

少年時代は飛行機の模型作りに熱中し、16歳の時に就職のため上京。大正8年(1919)、18歳の時に映画会社に入社し映画製作者としての第一歩を踏み出しました。

その後、松竹京都撮影所に移り、日活を経て、昭和12年(1937)、東宝撮影所に入社。「ゴジラ」「モスラ」「ラドン」などの特撮映画を次々と世に送り出し、日本映画界の発展に大きく貢献しました。

昭和38年(1963)には(株)円谷特技プロダクションを設立。テレビ用の特撮怪獣もの「ウルトラQ」などのウルトラ・シリーズを製作し、「特撮の神様」と呼ばれ、その名を不動のものとした。長年にわたる数々のヒーローを世に送り出した円谷監督は、狭心症による発作のため、昭和45年(1970)、68歳の生涯を閉じました。



ウルトラマンモニュメント 須賀川市とM78星雲「光の国」との姉妹都市提携を記念してJR須賀川駅前にウルトラマンの像が建てられた

昭和38年(1963)には(株)円谷特技プロダクションを設立。テレビ用の特撮怪獣もの「ウルトラQ」などのウルトラ・シリーズを製作し、「特撮の神様」と呼ばれ、その名を不動のものとした。長年にわたる数々のヒーローを世に送り出した円谷監督は、狭心症による発作のため、昭和45年(1970)、68歳の生涯を閉じました。

須田珙中

[suda kyochu]



すだ きょうちゅう
1907～1964 / 昭和を代表する日本画家。代表作に「琉球」「篝火」「正倉院」「吹雪」などがある。

須田珙中(本名・善二)は、明治40年(1907)、須賀川に生まれました。

中学校時代から画家の道への志を強くし、東京美術学校本科日本画科に入学。在学中に頭角を現し始め、「ぶどう畑」が日本画会展で入選。また第2回聖徳太子奉讃展でも入選しますが、「在学中、許可なく官展への出品を禁ず」の学則に触れ、一週間の停学処分を受けるというエピソードも残っています。

在学中は松岡映丘に師事し、卒業まで帝展への連続入選を果たすなど大活躍。日本画界の将来を担う若きホープとして期待されました。昭和26年(1951)に母校の東京芸術大学美術学部に進学して迎えられる。多くの優れた作品を残しています。

昭和39年(1964)、珙中は心筋梗塞のため、57歳の若さで急逝しました。早過ぎる才能の喪失は、日本画界への大きな打撃となりました。



旧市体育館の舞台どん帳図柄 本市を代表する牡丹を描いた図柄のどん帳

才能の喪失は、日本画界への大きな打撃となりました。昭和37年(1962)の作品「吹雪」は、近代的表現の可能性を探求し続けた彼の大きな成果の一つと言われています。

円谷幸吉

[tsuburaya kokichi]



つぶらや こうきち
1940～1968 / 東京オリンピックの陸上競技で日本唯一のメダリスト。日本陸上競技の発展に大きく貢献。

今から50年前、昭和39年に開催された東京オリンピック。そのマラソン大会で堂々の第3位。陸上競技で日本唯一メダルを手にしたのが円谷幸吉選手でした。

円谷選手は昭和15年、須賀川に生まれました。高校時代に、福島縦断駅伝で区間新記録を出し本格的な陸上競技の道へ。卒業後は陸上自衛隊郡山駐屯部隊に入隊し、練習を積みました。昭和36年の青東駅伝では3区間を走り、3区間全て新記録を樹立。翌年には自衛隊体育学校開校の第一期生として入学。中央大学経済学部にも進学し、陸上と勉学に励みました。

オリンピック候補選手記録会では1万メートルで日本新記録を達成。続くマラソンのオリンピック代表選手選考会でも2位の成績を修めオリンピックへの出場を決めたのです。しかし、その後は持病の腰痛が悪化。けがにも見舞われ、昭和43年「疲れきって、もう走れせん」という遺書を残し自ら命を絶してしまいました。享年27歳。余りにも早く、早過ぎる生涯でした。



生誕70周年記念の第28回 円谷幸吉メモリアルマラソン大会 運営には実行委員会があったり、多くのボランティアも大会を盛り上げる

「疲れきって、もう走れせん」という遺書を残し自ら命を絶してしまいました。享年27歳。余りにも早く、早過ぎる生涯でした。

歴代須賀川市長



◎6代◎
相楽新平
平8.8.11～平20.8.10



◎5代◎
高木博
昭59.5.10～平8.6.29



◎3代◎
鈴木貞夫
昭39.5.10～昭47.5.9



◎2代・4代◎
澤田三郎
昭31.5.10～昭39.5.9
昭47.5.10～昭59.5.9



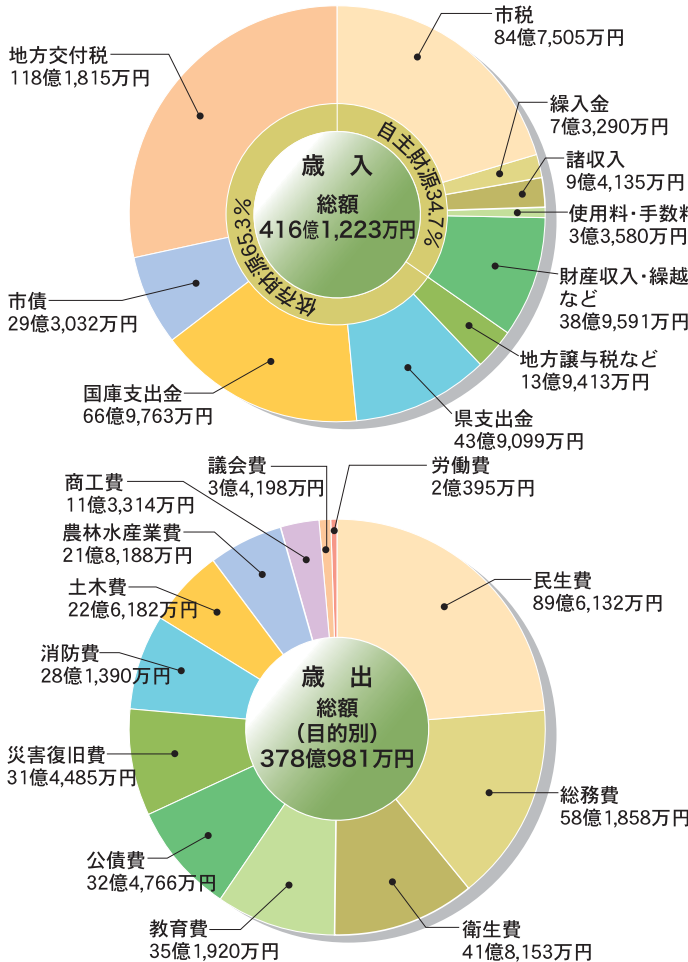
◎初代◎
岡部宗城
昭29.4.27～昭31.4.8

歴代須賀川市議会正副議長

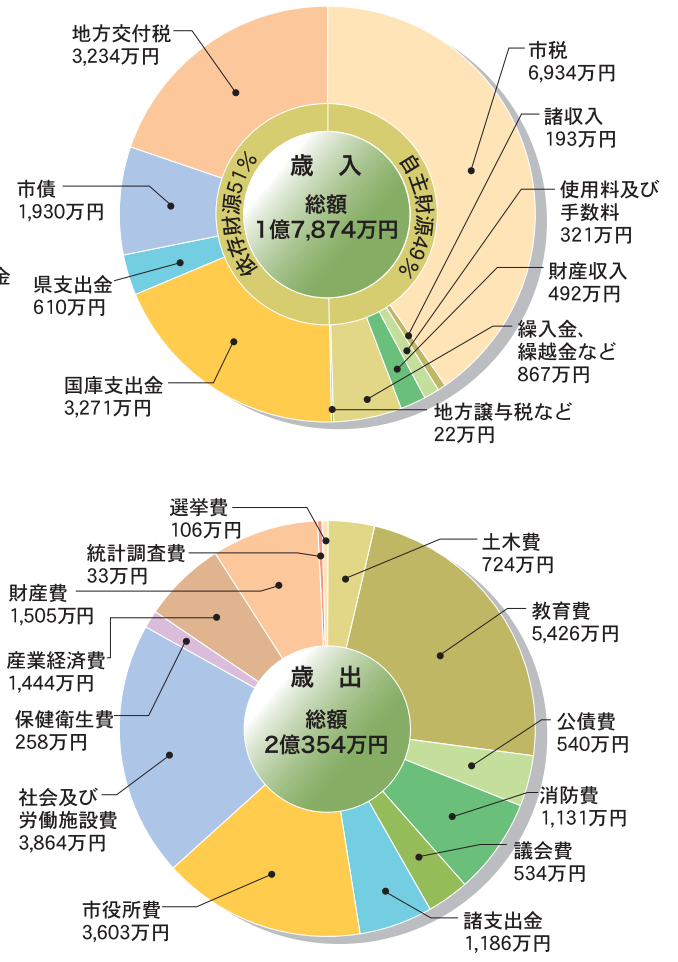
代	氏名	生年	死年
初代	樽川久松	昭29.4.4	昭30.3.30
2代	安田平七	昭30.4.4	昭30.3.30
3代	鈴木正雄	昭34.4.4	昭38.3.30
4代	橋本平男	昭38.4.4	昭42.3.30
5代	山下淡童	昭42.4.4	昭46.3.30
6代	森新二	昭46.4.4	昭50.3.30
7代	遠藤輝雄	昭50.4.4	昭54.3.30
8代	堀川正二	昭54.4.4	昭58.3.30
9代	有馬博	昭58.4.4	昭62.3.30
10代	深谷一由	昭62.4.4	昭66.3.30
11代	添田勝人	平1.3.3	昭3.4.4
12代	阿部和寿	平3.5.5	昭5.6.6
13代	岡谷久則	平5.7.7	昭7.8.8
14代	関根吉郎	平7.9.9	昭9.10.10
15代	宗形充三	平9.11.11	昭11.12.12
16代	宗形充三	平11.1.1	昭13.2.2
17代	水野敏夫	平13.3.3	昭15.4.4
18代	水野敏夫	平15.5.5	昭17.6.6
19代	水野敏夫	平17.7.7	昭19.8.8
20代	菊地忠男	平19.9.9	昭21.10.10
21代	村山廣嗣	平21.1.1	昭23.2.2
22代	森新男	平23.3.3	昭25.4.4
23代	鈴木正勝	平25.5.5	昭27.6.6

代	氏名	生年	死年
初代	柳沼甚四郎	昭29.4.3	昭30.3.30
2代	佐藤市朗	昭30.4.7	昭34.3.30
3代	羽田徳太郎	昭34.4.9	昭38.3.30
4代	三浦一	昭38.5.7	昭42.4.30
5代	服部三寿	昭42.5.4	昭46.4.29
6代	服部三寿	昭46.4.30	昭50.4.29
7代	山下淡童	昭50.5.8	昭54.4.29
8代	斉藤種平	昭54.5.2	昭58.4.29
9代	斎藤明	昭58.5.6	昭62.4.29
10代	斎藤明	昭62.5.8	昭66.4.29
11代	森新二	平3.3.20	昭5.4.29
12代	森新二	平5.5.20	昭7.6.29
13代	深谷一由	平7.7.17	昭9.8.29
14代	西間木寅吉	平9.9.10	昭11.10.29
15代	添田勝人	平9.9.9	昭11.10.29
16代	添田勝人	平11.11.11	昭13.12.29
17代	高橋秀勝	平13.1.13	昭15.2.29
18代	高橋秀勝	平15.3.15	昭17.4.29
19代	高橋秀勝	平17.5.17	昭19.6.29
20代	大越彰	平19.7.19	昭21.8.29
21代	渡辺忠次	平21.9.21	昭23.10.29
22代	鈴木忠夫	平23.1.23	昭25.2.29
23代	市村喜雄	平25.3.25	昭27.4.29

平成24年度一般会計歳入歳出決算額



昭和29年度一般会計歳入歳出決算額



発刊のことば

輝く未来にともに歩むわがまち須賀川

昭和29年3月31日に5町村が合併し、須賀川市として市制を施行して以来、今年で60周年を迎えます。

顧みると、乙字ヶ滝遺跡から出土した旧石器は、はるか古からこの地が要衝として栄えていた証であり、420余年の歴史ある「松明あかし」は、城下町として栄えていたそれまでの時代を思い起こさせます。また、江戸時代は、奥州街道屈指の宿場町として、そして町人の自治によって発展して参りました。

脈々と先人各位が築きあげてきた礎は、本市にとってかけがえのない財産であり、市民の皆様が須賀川に抱く愛着や誇りとなって、現代に受け継がれ、未来へと大きく育てられ、新たな須賀川の個性を紡いでいきます。

今年の4月には、平成17年の平成の大合併により3市町村が一緒になった新生須賀川市が誕生してから10年目を迎えます。60周年ともども「新たな時代の幕開け」となる記念すべき節目の年となりますが、本市は現在、東日本大震災や原子力災害からの復旧・復興の真っただ中にあります。この先何年か後に、本市の歴史を振り返った時、この数年間の出来事は、これまで60年の歴史の密度に匹敵する大きな変化をもたらすものとなるでしょう。だからこそ、私たちは今、「自治のまち須賀川」の誇りを、心の糧として、子どもたちが、将来とも「住んで良かった、住み続けたい」と心から思える魅力あふれるふるさと須賀川を目指し、強い絆で結ばれた「協働」の理念を基本として、時代の潮流を見据えながら、新たな時代のステージへ歩み進んでいかねばなりません。

こうした思いを込めて、先人各位が英知や情熱を結集し、営々と築いてきた尊い歩みを振り返るとともに、未来への道標として記念誌をここに発刊いたしました。本市の発展にご尽力いただきました皆様に、改めて敬意を表するとともに、従来にも増して市勢発展のためにご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年3月28日



須賀川市長
橋本 克也



2013

◎発行日◎

平成26年3月28日

◎編集◎

福島県須賀川市

〒962-8601 福島県須賀川市八幡町135番地

電話 0248-75-1111(代)



この記念誌は、再生紙を使用しています。